もっといい明日が見えてくる－Letters from Gnoble

# Gno G-let
グノレット

保存版

vol.23

2019年6月発行

## 東大合格 特集号

医学部合格者
インタビュー併載

グノーブルを活かし、最大の効果を上げるヒント満載。
13期生の合格者インタビュー特集。

Gnoble GROUP

CONTENTS


13期生　合格者インタビュー

東京大学 文系 …… P1-14

東京大学 理系 …… P15-32

国公立・私立大学 医学部 …… P33-47


2019年東京大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

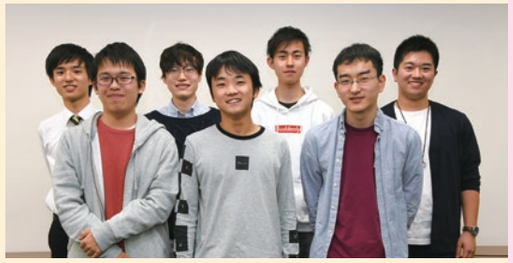
膨大な情報量になっていますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをお勧めします。

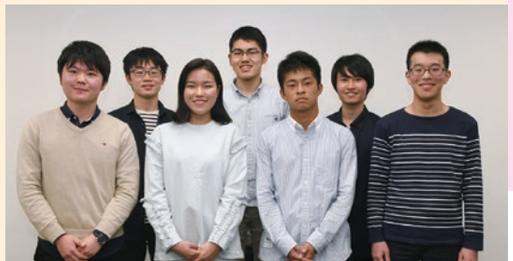
勉強を進めていく時に大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひ、お試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。そんな時には、改めてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気をもらえると思います。

2019年6月　グノレット編集部

※なお、各インタビューの内容には抜粋版のものがあります。グノーブル・ホームページにおいてPDFフルバージョンをお読みいただけます。詳細は各インタビューページの冒頭でご確認ください。





13期生 合格者インタビュー

# 東京大学

# 文系

【座談会出席者】（五十音順、本文中敬称略）

Part 1

伊東 希々（いとう ののさん
（文Ⅰ・田園調布雙葉）

小田切 文（おだぎり あやさん
（文Ⅰ・桜蔭）

芝 崇汰（しば しゅうたさん
（文Ⅱ・麻布）

清水 瞭（しみず りょうさん
（文Ⅰ・開成）

鈴木 友貴（すずき ともきさん
（文Ⅱ・筑波大学附属駒場）

鈴木 悠太（すずき ゆうたさん
（文Ⅰ・麻布）

松下 慧輝（まつした さときさん
（文Ⅰ・芝）

Part 2

國枝 健（くにえだ けんさん
（文Ⅲ・筑波大学附属駒場）

佐柄木 真由（さえき まゆさん
（文Ⅲ・中央大学附属横浜）

清水 響（しみず ひびきさん
（文Ⅱ・開成）

向田 翔太（むこうだ しょうたさん
（文Ⅱ・開成）

山本 真愛（やまもと まいさん
（文Ⅲ・都立国立）

# 東京大学 文系 Part 1

伊東 希々（いとう のの）さん（文Ⅰ・田園調布雙葉）
芝 崇汰（しば しゅうた）さん（文Ⅱ・麻布）
鈴木 友貴（すずき ともき）さん（文Ⅱ・筑波大学附属駒場）
松下 慧輝（まつした さとき）さん（文Ⅰ・芝）
小田切 文（おだぎり あや）さん（文Ⅰ・桜蔭）
清水 瞭（しみず りょう）さん（文Ⅰ・開成）
鈴木 悠太（すずき ゆうた）さん（文Ⅰ・麻布）

●PDFフルバージョンでは、「学校生活と塾の両立」、「グノーブルの評判」、「グノーブルの環境」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet23/

**英語に強い塾を探してグノに入りましたが、数学もとても良かったです。グノの数学にはセルフチェックシートがあって、自分の傾向や苦手分野と向き合え考え深くなれたと思います。**

**松下 慧輝さん（文Ⅰ・芝）**

## 入塾のきっかけ

**芝：**僕は中３の冬から通いました。高校に進学したら「ちゃんと勉強しよう」と思い、とりあえず英語だけでも塾に入るつもりでした。友達に話を聞いたら「英語ならグノだよ」と言われて、冬期講習を受けてみました。

グノの授業には楽しい雰囲気があって、文法的な解説ばかりしている授業よりも自分に合っていると感じました。

**清水：**僕は中１から他塾で英語を受講していましたが、文法面に不安があったのでそれを補うために別の塾を探しました。小さい頃に少しだけ海外に住んでいて英語に親しんだ経験があったので、文法ばかり教わることには抵抗もありました。そんな時期にグノの噂を聞いて、新高１で春期講習に参加してみました。

英語を英語として捉えるグノの方針に共感し、「自分の気に入った塾で学びたい」と考えて入塾しました。

**松下：**グノに入塾したのは高１の夏期講習の英語からでした。それまでは他の英語専門塾に通っていて、そこで英語を楽しんでいましたが、周りから刺激を受けられる環境ではありませんでした。

伊東 希々さん（文Ⅰ・田園調布雙葉）

英語に強い塾を探していたらグノを見つけて、講習を受けてみたら面白かったのでそのまま入りました。

**鈴木（友）：**僕は高１の春に英語で入って、夏から数学、高２から古文と現代文も始めました。僕の学校では、他塾に通っている人たちが宿題を学校でずっとやっていて、その姿を見て「これでは学校生活と両立できない」と思いました。

中学からグノに通っている人たちは宿題の負担はなさそうだったし、振替制度のことも聞いていたので、「学校生活と両立しながら学べそうだ」と思ってグノに決めました。

**伊東：**高２の冬に英語で入りました。私の学校にいる数少ない東大志望の人たちは東大専門塾に通っていましたが、東大だけを見て勉強している雰囲気がありました。

私は本当に身になる英語を求めていたので、東大受験に特化した勉強は好きになれませんでした。そこで見つけたのがグノでした。合格体験記を読んで、「通うならこういう塾がいい」と思いました。

**鈴木（悠）：**「そろそろ英語の塾に通わないと」と思っていた高２の初め頃、部活の先輩がグノのことを楽しそうに話しているのを聞いて、グノが選択肢に入りました。実際に説明会に参加してみて、「この塾なら間違いない」と思って決めました。それ以前に大手予備校の体験授業を受けたこともありましたが、文法中心の解説があまり頭に入ってこなかったんです。

グノの説明会で受けた模擬授業では、思わず引き込まれる面白さを感じました。高３からは国語も受講しました。

## グノーブルの英語

**小田切：**英文を前から英語のまま読むのが好きでした。これができるようになると、リスニングも得点源になりました。

高１のとき、他塾で「これがＳで、これがＶで、ここを括弧で括って」というアプローチの授業を受けていましたが、複雑な構造の文になると構造を解析することに頭がいっぱいになり、内容が全然わからなくなっていました。こういう英文の読み方があたりまえだと思っていたので、最初グノの英文の読み方には戸惑いもありました。

小田切 文さん（文Ⅰ・桜蔭）

慣れてしまえばグノの読み方の方が圧倒的に簡単ですし、内容の理解に頭を使えてスラスラ読めるようになったのは大きかったです。

**伊東：**グノでは文法もしっかり説明されますが、英語の成り立ちを踏まえた解説なので私にはとても良かったです。非常に興味が持てましたし、自然な文法を習得できました。豊かな表現や微妙なニュアンスの使い分けもできるようになりました。

**清水：**先生たちからは、語学の習得にはインプットとアウトプットが大切だとよく言われていました。

グノの読解の授業では興味深い英文をたくさん読めましたし、GSL＊も充実していたのでリスニングでのインプットもできました。文法の問題も「ここを聞いてくるのか！」といった発見がいっぱいありました。

アウトプットはプレゼンのように行う音読と、毎週たくさん添削してもらえるライティングです。インプットとアウトプットの両方を積み重ねて、「英語ではこういう捉え方をする」という感覚とか、英語のリズムや呼吸がわかりました。

**鈴木（友）：**僕が一番いいなと思ったのは、英単語の意味を覚えるときに日本語との対応で覚えるのではないということです。単語帳を使って日本語との対応で覚えていると、イメージの広がりがなくて、固定的な日本語でしか意味がとれなくなります。

グノだと、接頭辞や接尾辞、語根のことをちゃんと教えてもらえるし、時には先生が黒板に英単語のイメージを絵に描いてくれたり、体を使って動作で表現してくださります。

例えば、perという接頭辞は「ずっと」という意味で、spectという語根は「見る」という意味だから、perspectiveは絵画の文脈なら

芝 崇汰さん（文Ⅱ・麻布）

「遠近法」という意味になるし、perspective on lifeというような使われ方なら「人生観」になります。

このように覚えられると、英文の中で単語が生き生きと見えてきます。語根や接頭辞などがヒントになって意味を推測できるようにもなるし、文脈から和訳のときの日本語を工夫できるようにもなります。

**清水：**僕は単語帳を一周暗記したことがありますが、どうしても英単語と日本語を一対一で覚えることになってしまい、ひとつの意味を忘れたらそれで終わりになりがちでした。グノに入ってからの単語の覚え方は、広がりを持って単語の意味を思い出せる強みがありました。

**小田切：**単語帳を使わなくても、グノの授業できちんと理解した単語は英文の中で自然に覚えられました。単語帳にかける時間がなくなった分、他のことに時間をかけられて良かったです。

**鈴木（悠）：**僕も単語帳は全然使いませんでした。それでも英文の中で初めて見る単語も、文脈やその単語の成り立ちから意味を推測できるようになりました。単語帳から始めるのとは違う利点がグノのやり方にはありました。

**鈴木（友）：**高２のときに、語源ノー

＊GSL（Gnoble Sound Laboratory）：中１から高３までの６学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。

**清水 瞭**さん（文Ⅰ・開成）

トの作り方を教えてもらいました。それを実際に作り始めてから、より覚えやすくなりました。

語源ノートは、語根を真ん中に書いて、そこから線をのばして関連する英単語をどんどん書いていくメモノートみたいなものです。

**松下：**グノの英語は、受験英語を教えるというよりも、言語としての英語を教えるという点が特徴的でした。

授業で提供される英文の中にはただ難しいのではなくて、英語的な脳みそになっていないと中核までたどり着けない英文もよくありました。先生はその英文を深く理解した上で説明してくださるので、解説を聞いていると、英語的な発想の仕方がわかってきて、ちょっと感動することもありました。

授業ではいろいろな分野の英文や、最新の時事的な英文も扱われました。新しい知識も増えて知的な楽しみを満喫できました。英文の背景に関しては先生がいつも楽しそうに解説してくださっていたので、授業で扱った英文は楽しく復習できました。

**鈴木（悠）：**授業で扱う英文自体がとても面白いんですよ。英語という科目だけでなく、英文の背景にある哲学のようなものも理解できるのが楽しかったです。

グノの英語の授業で学んだことは、受験での得点力アップにつながるのはもちろんですが、現代文の解釈に役立つものもありました。自分の教養の厚みが少し増したように思います。

**清水：**授業の雰囲気に適度の緊張感があるのもグノの特徴です。

授業は先生と生徒のやり取りで進んでいくので集中がとぎれません。自信のないところに限って自分に回ってきてつらいこともありましたが（笑）、それはそれで楽しいものでした。

答えられなかった内容は悔しいのと同時に忘れがたくなるし、指名される授業だからこそ、わからない単語があっても、その意味を文脈から推測しようと必死になるので、考える習慣がつきました。

**芝：**緊張感といえば、授業の中で演習したことをすぐに添削して採点してもらえるのは本当に良かったと思います。毎週「今週もがんばるぞ」と思って授業に臨めましたし、できなくても「またがんばろう」というモチベーションにつながりました。

**小田切：**授業であてられても大丈夫なように演習時間ギリギリまで解答の根拠を探すから、模試や入試本番でも広い視野で考える練習になりました。

授業内演習では、点数の分布を先生が黒板に書いてくださるので、自分の位置が大体わかります。グノには本当に優秀な人が多いので、それを見ながら「今日はがんばれたな」などと思えたのが良かったです。

**鈴木（悠）：**演習のときには隣の人が解いていくスピードもわかるので、その緊迫感を結構楽しんでいました。この経験はとても大きくて、入試本番でも生きたと思っています。

**鈴木（友）：**確かに、授業内演習を続けていると、模試への抵抗感がなくなるし、東大入試本番でも「時間がきつい」と思いませんでした。

東大の英語は、120分で読んで書いて聞いてとたくさんこなしますが、グノで何十回も授業内演習を重ねていたら楽になります。

**松下：**演習問題のレベル自体がかなり高かったと思います。でも、直後に解説があるので、気持ちが新鮮なまま自分の解いた問題と向き合えました。自分の中で良かった部分と悪かった部分が浮き彫りになって、毎週印象に残る授業でした。

**伊東：**私は東大入試本番で世界史を大失敗した自覚があって、英語と国語に救われました。英語の場合、授業内で添削を受けた回数の積み重ねが表れたのだと思います。

先生方の添削は単なる丸つけではありません。例えば英作文の場合だと、文法や語法のミスも指摘していただけますが、「こういうところをまとめられていて良い」とか「こういうところを言及すると良い」とか、内容構成についてのコメントもいただけました。

**鈴木 友貴**さん（文Ⅱ・筑波大学附属駒場）

要約の場合だと、筆者の主張を的確に把握し、その主張をするのに筆者がどのように英文全体を組み立てているか、それを見抜く目を養う指導を厳しくしていただけました。これらを繰り返し鍛えられたおかげで本番での成功につながりました。

## 英語の力が伸びた時期

**小田切：**「あっ、変わった」と思ったのは高３の夏です。

夏休みは時間をとれるから、朝の目が覚めたときと夜の寝る前に、普段よりも長く音読をしました。その結果、サッカーの英語実況が自然に聞き取れるようになっていたんです。

**鈴木 悠太**さん（文Ⅰ・麻布）

**伊東：**私も音読は毎日やっていました。GSL を聞いて、英文を覚えるくらいまで読み込みました。秋頃には英語を読むのが速くなったことを実感できましたし、直前期までどんどん速読力は伸びました。

何回も音読して理解の深まった英文が増えるにつれて、初見の英文でも速く読めるようになっていました。

**松下：**僕はまずグノに入った直後に伸びていると実感しました。このときは英文法を必死に勉強していたので、いい加減だった英文法の土台が整ったからだと思います。

そのあとは高３の２学期の秋にも伸びを実感しました。グノでたくさん読んできた英文の蓄積のおかげだと思います。

**清水：**グノに入塾後、英文にたくさん触れるようになって１か月もしたら、新しい英文を読んでもスッと内容が頭の中に入ってくるようになりました。

高３の夏以降、慢心していたせいで読み込みをしていなかった時期があったのですが、そうしたら英語の成績が落ち始めてしまいました。

やはり毎日コツコツ英語に触れることは大切です。電車の行き帰りを使って常にグノで扱った英文の読み込みをしているうちに、また英語が頭に入ってくるようになりましたし、読み込みのおかげで語彙力もついて、テストでも点数をとりやすくなりました。

**鈴木（悠）：**僕も音読を勧められていたにもかかわらず、高３の初めの頃は、社会科目の勉強もあって、音読をサボっていました。おかげで夏の全国模試では、英語が全部解き終わりませんでした。

「これはまずい」と思ってその日から集中的に音読を始めました。先生のアドバイスを参考にして、プレゼンテーションをするように、内容を英語で伝える意識を持った音読です。

夏の模試では英語の偏差値が 50 ちょっとしかなかったのですが、秋の模試では偏差値が 70 までアップして、「本当に伸びた」とうれしくなりました。入試本番でも 15 分くらい時間が余りました。

**鈴木（友）：**僕は急激に伸びたのではなく、高１から高３まで少しずつ継続的に伸びていたのだと思います。

高３になってから高１の頃のプリントを見直していたら、当時は「難しい」と思っていた英文もスラスラ読めるようになっていました。この間にメインで取り組んでいたことは、やはり GSL を利用しての音読です。

**芝：**僕の場合はリスニングがずっと苦手でした。

高３の夏の東大模試のあと、グノの先生に相談し、いただいたアドバイスに従って GSL を活用したシャドーイングを始めました。そのうちにリスニング力が安定してきて、秋の模試でリスニングが２倍の得点になってびっくりしました。

## グノーブルの数学

**小田切：**私は高２で英語と一緒に数学も受講しました。

中学受験の頃から算数が嫌いで、高２までの４年間数学をサボっていました。だから、本当に数学ができませんでした。問題の解き方がわからないし、勉強の仕方もわかりませんでした。ほとんどの人は教科書の問題を解いていくとわかるようになるのでしょうが、私は教科書の問題がそもそも全く解けなかったんです。

でも、グノに通ったら、「数学が一番伸びた」と言ってもいいくらい伸びました。高３の秋の模試で全国偏差値が 65 を超えましたし、数学が安定したから他の科目にも集中できました。グノで数学が劇的に変わらなければ、そもそも国立大学を受けていなかったかもしれません。

グノの授業で「こういうふうにやればいいんだよ」「この考え方を使

**松下 慧輝**さん（文Ⅰ・芝）

えば解けるよ」ということを、感覚ではなく言葉で論理的に教えてもらえたので、体系立って積み重ねることができて、自信とやる気が出てきました。

セルフチェックシートも力になりました。シートを埋めるのは大変でしたが、先生も私以上にコメントを書いてくださるので、それを励みにして、「ちゃんとやろう」と自分を奮い立たせました。

シートを書き続けたおかげで、正答する見込みがある失敗と全く見当違いの失敗とを区別できるようになりました。何よりも最後の方は数学がとても好きになって、本番でも得点源になりました。

**鈴木（友）：**グノの先生は「野生」と「整理」という言葉をよく使っていました。数学が大好きで得意な人が自分のやりたいようにやって正解を出すのは「野生」です。「こういう問題はこうしたら解ける」と自覚的なやり方が「整理」です。

僕は数学が嫌いではなかったので、調子がいいときは好きにやっても解けました。でも、好きにやっているとつまずくこともよくありました。僕のような受験生には、「整理」が大切だったんです。

グノの授業を受けて宿題をこなしていくうちに、「整理」の方法が身について、「野生」で不安定だった数学が安定するようになりました。

**松下：**グノの授業は、しっかりついていけば、誰でも数学ができるようになる授業形態です。しかも、教科の枠にとらわれず、他のあらゆる面で活かせるメソッドを学べます。

**伊東 希々**さん（文Ⅰ・田園調布雙葉）

**小田切 文**さん（文Ⅰ・桜蔭）

例えば、「メタコグニション」という言葉があります。これは、“自分の認識の仕方を認識すること”を意味し、それができるといろいろな面で役立ちます。

グノのセルフチェックシートでそのメタコグニションが身につきました。シートを書き続けていると「自分がどういう傾向を持っていて、どういうところが苦手なのか？」がわかるようになります。そこに対する解決策を自分なりに考案して実験し、ダメならダメで新しい解決策を考えて、うまくいったらそれを知識として自分の中に蓄えておく、というトライ・アンド・エラーもできるようになりました。

妥当性を持った一般則でも、実際にやってみるとうまくいかないことがあります。そんなときは「どうすればいいのか？」を、セルフチェックシートを書きながら深く考えることになりました。この時間にも大きな意味がありました。

## グノーブルの国語

**鈴木（悠）：**高３で受講した東大国語のおかげで、国語の力はかなり伸びて、本番も十分な手応えを感じられました。

堅苦しくて抽象度の高い文章でも、先生が身近で面白い具体例に置き換えて解説してくださったので、本文に対する理解が深まりました。抽象的な事柄は具体的な例を思い浮かべてみると見通しが良くなるという思考法を学べました。

他の予備校だと、ひとつの解答例を挙げて「あなたの解答はここが間違っている」という添削法になりがちです。一方、グノでは、生徒の書いた答案に少しずつ足し引きしていって正しい解答に導いていくという添削法で、僕も納得できる添削を受けられました。

**鈴木（友）：**僕は高２からグノの国語を受けていました。

先生は、抽象的な難しいことや一回文章を読んだだけではわからないことを、身近な例を使って具体的に解説してくださいます。そこには深い洞察や教養もあって、授業を受けているうちに、それが自分の一部にもなっていきました。最終的には「読んでわからない」となる文章はほぼなくなりました。

**芝 崇汰**さん（文Ⅱ・麻布）

古文・漢文も丁寧に文法を教えていただけて成績が伸びました。古文単語の覚え方も、その成り立ちを踏まえるというグノの英単語の覚え方と似ていて、現代語に関連させたり、漢字に置き換えたりして意味を推測するなど、楽しく本格的に勉強できました。

**清水 瞭**さん（文Ⅰ・開成）

**伊東：**私はもともと国語がかなり得意でした。古文・漢文は高２で自分なりに完成していたので、「塾に行かなくていいかな」と思っていました。でも、高３の春にグノの授業を受けたら、惚れてしまったんです（笑）。結局１年間ずっと受講しました。

授業では毎回、腹筋が痛くなるほど笑って、いつの間にか力が伸びていく感覚でした。解説は、全然関係ないような先生の面白い昔話から始まって、話が進んでいくうちに設問のヒントにつながっていくんです。ちょっとした日本史のクイズなども多くて、それに答えるのが楽しみでした。

添削は、一人ひとりの答案に対して的確に付け加えたり削ったりしてくださって、本当に丁寧でした。解答例も私たちの手が届くような表現を提示していただけたので、とても参考になりました。

先生が本文に書かれている長い比喩をどう簡潔にまとめるかといったテクニックを教えてくださったおかげで、東大模試でも良い点をとれました。

**小田切：**私も国語は昔から好きでしたが、高３の春期・夏期・冬期・直前の講習は受講しました。以前は、東大で出題されるエッセイふうの文章の場合、何が問われているかわからずに面食らってしまっていたのですが、グノの授業を何回か受けているうちにどんどんできるようになりました。

何より、現代文と古文と漢文とを同じ先生が教えてくださるので、自分のことをトータルにわかっていただける安心感がありました。「古文と漢文は良い感じだから、現代文を安定させようね」とアドバイスをいただき、本当にありがたかったです。

**松下：**僕も新高２の春期から直前まで、講習だけ受講しました。学校にはグノの国語に感銘を受けた人たちが多くいて、それで僕も受けてみたのですが、みんなの言っていた通りでした。

授業は東大入試を見据えた内容で、テキストの文章自体も先生の話も面白いし、解答解説も十分納得できるものでした。

宿題や見直しは、楽しい授業を思い出しながら取り組めて、自宅学習も楽しくなりました。

僕はグノ以外にも通信教育を受けていて先生はそちらの教材のやり方までアドバイスしてくださいました。

様々なサポートのおかげで不得意な現代文の成績が大きく伸びました。

## グノーブルの先生

**鈴木（悠）：**授業でわからないことがあったらグノの場合、気軽に質問できます。

例えば、僕が夏模試でひどい成績だったとき、すがる思いで国語の先生に相談にいったんです。そうしたら、先生は社会科目のことも含めて話してくださって、先生ご自身の経験に基づいた的確なアドバイスをくださいました。勉強計画を立てる上での指針を示していただけたので本当に助かりました。

一方通行の授業で、質問も気軽にいける雰囲気ではない他塾とはまるで違いました。

**小田切：**グノの先生は一人ひとりとちゃんと向き合ってくださいました。その姿に私は感動したことがあります。

新高３の春に電話である先生にちょっとした相談をさせていただいたことがありました。そのことを先生はずっと覚えていて、合格後の報告会のとき、「あのときの電話では……」と先生から話してくださったんです。「私も忘れていたことなのに！」と本当に感動しました。

グノの先生は全員親切です。一見近づきにくくて最初は質問にいくのをためらっていた数学の先生も、いざ質問にいってみると、とても優しく対応してくださり感動しました。

**芝：**質問といえば、グノではメールでも質問できます。すぐに返信が来て驚いたことも何度もあります。たとえ夜遅くても、先生は生徒のためにメールを返信してくださるんです。

「グノの先生の生徒思いはすごい」と思っていました。

**松下：**生徒をちゃんと見ていてくださるのは心強いです。僕は高３の夏前に英語のクラス分けテストで失敗してクラスが落ちてしまいました。そのときはどん底でしたが、先生たちに声をかけていただいて救われました。

国語は受験終盤の過去問添削でびっしり赤入れをしていただきましたし、数学も先生と双方向のコミュニケーションがいつもとれていたので、勉強に前向きに取り組めました。

**鈴木 友貴**さん（文Ⅱ・筑波大学附属駒場）

それだけでなく学校生活の相談にも一緒に考えてくださったことがありました。

**鈴木（友）：**松下君と同じく、僕も英語のクラス分けテストで落ちたことがあります。だから、結果としていろいろな先生に英語を習いました。数学や国語も含めて何人もの先生にお世話になりました。

　グノの先生は皆さん個性的で楽しい方なのですが、面倒見がいいという点では一緒です。親身なアドバイスをくださる一方で、勉強法などは生徒の自由を尊重してくださいます。文化祭のときは準備の進捗を聞いてくださったりと、学校行事への理解があるのも本当にありがたかったです。

**伊東：**先生は生徒一人ひとりをよく見ていらっしゃいます。添削もとても丁寧で、細かいところまでコメントした答案を返してくださいました。

**鈴木 悠太**さん（文Ⅰ・麻布）

　何が得意で何が苦手なのかということも的確に見抜いていらっしゃる先生から「あなたはここはこうだから大丈夫」と励ましてもらえると、根拠のない「大丈夫」からは得られない自信につながります。

**清水：**先生は親身なだけでなく、様々なことにおいてとてもレベルが高くて驚かされました。

　英語の先生は毎週新しい英文を何本も用意して授業に持ってきてくださるし、その英文の背景にまで精通している解説を毎回受けられました。とても熱い気持ちを持っていらっしゃるのも伝わってきて、毎週「すごい」と思って授業を受けていました。

## 後輩へのアドバイス

**鈴木（友）：**大学受験はこれまでの受験と違って文系理系や志望大学、科目の選択、勉強法など、決めなければいけないことがたくさんあって悩みます。だからといって、学校やネットで情報集めに躍起になるよりも、グノの先生に相談してアドバイスを受けながら真面目に勉強に向かう方が賢明です。グノと自分を信じて勉強するのが大事です。

**小田切：**先生に相談したら親身に現実的なアドバイスをくださいます。勉強そのものでなくても、勉強法や学校の悩みなど、何でもいいから怖がらずにどんどん質問にいきましょう。

**清水：**グノの先生たちは、普段から僕たちのことをよく見ていてくださるので、先生のところにまず相談にいってみるのはおすすめです。

　でも、その一方で、勉強するのは自分たちなので、やるべきことはしっかりやることが大切です。例えば英語の音読をしっかりやるとか。

**鈴木（悠）：**僕も英語は音読に尽きると思います。慣れていないうちは、音読がつらくて大変です。でも、続けていくうちにどんどん楽しくなります。

　効果が出るまで３、４か月はかかりますが、こらえて続けていれば、ある時期から成績や結果がついてきます。グノの先生を信じて音読してほしいです。

**芝：**音読には恥ずかしさが伴うかもしれません。僕も斜に構えて「音読はちょっと……」という時期がありました。でも、最後には先生のおっしゃることを信じて、恥ずかしさを捨てて、人形相手に音読やシャドーイングをすることで、ちゃんと結果につながりました。

**松下 慧輝**さん（文Ⅰ・芝）

**松下：**大学受験は最終的には自分の受験です。だから、試行錯誤を最後まで続けなければなりません。そういう過程を手助けしてくれるのがグノです。先生が後押しをしてくださるので、好きなだけ失敗できる塾だと思います。やってみるから、失敗できるのだし、失敗した分、成長につながりますからグノの環境を存分に活用してください。

**伊東：**私は、大学受験のために通っていたと思えないほど、生きた知識を学べた充実の一年間でした。生きた英語を学ぶ努力をしていれば、いつの間にか東大入試でも自分が思っている以上のところにたどり着けます*。グノを信頼して真面目に取り組めば大丈夫です。

＊伊東さんは TLP の認定を受けました。TLP（Trilingual Program）：「グローバルリーダー育成プログラム」の一環。東大の英語入試で上位１割程度に入った学生に認められています。



# 東京大学 文系 Part 2


國枝 健（くにえだ けん）さん（文Ⅲ・筑波大学附属駒場）
佐柄木 真由（さえき まゆ）さん（文Ⅲ・中央大学附属横浜）
清水 響（しみず ひびき）さん（文Ⅱ・開成）
向田 翔太（むこうだ しょうた）さん（文Ⅱ・開成）
山本 真愛（やまもと まい）さん（文Ⅲ・都立国立）


●PDFフルバージョンでは、「グノーブルの先生」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet23/

**「単語帳は要らない」と言われて、最初は「大丈夫かな？」と疑問に思いました。でも、語源から教えてもらえたことで、イメージで単語を覚えられましたし、うまく解釈できるようになっていることに気づき、グノの方針に納得しました。**

**國枝 健**さん（文Ⅲ・筑波大学附属駒場）

## 入塾のきっかけ

**山本：**グノに通っていた姉から勧められて、高１の冬期講習で英語を受けてみたら、本当に楽しかったので入塾を決めました。姉からいろいろ教えられていましたが、実際に語源から単語を学ぶ体験ができたのが印象的でした。

**佐柄木：**私は高１の夏休みから高２の夏までアメリカに留学していました。そのおかげでリスニングは得意になりましたが、簡単な単語しか使わない生活を送っていたため、難しい単語を知らないし、文法もメチャクチャでした。

　帰国後、学年が上がったとき、「塾に行かないとまずい」と思って英語に特化した塾を探しました。私の高校は進学校ではなく、東大に進学した先輩もいませんでした。だから、ネットを使って自分でいくつか候補を絞って、説明会や体験授業に参加しました。グノに通っていた知り合いからの情報も参考になりました。

　高２の９月から英語に入塾して、高３で国語も受講しました。

**國枝：**僕がグノに入ったのは新高２になる春期講習からで、古文を受講しました。古文を全然勉強していなかったので困っていたとき、サッカー部の先輩から「グノの古文がいい」と勧められて講習に参加しました。

　高３からは東大国語と英語をスタートしました。

**國枝 健**さん（文Ⅲ・筑波大学附属駒場）

**清水：**僕が入塾したのは中２のときです。小学生の頃は、英語に全然触れたことがなくて、アルファベットも書けないくらいでした。中学受験で開成に合格したあと、個別指導塾で英語を習い、とりあえず中１の定期テストではある程度点数をとれていましたが、中２から学校の英語の授業についていけなくなりました。先生にあてられても、みんながわかっているのに自分はわからなくて怖くなったんです。

　英語がみんなより遅れていることに気づいて母に相談したら、母が調べてグノを見つけてくれました。

**向田：**高１の４月に英語と数学で入塾しました。

　僕もサッカー部で、中学のときは部活中心の生活でした。定期テストはいつも残念な状態で、授業も寝ていることが多かったです。中３でそんな自分の状況に危機感を覚えて、最初は他塾に行きましたが、あまりピンとこなかったので別の塾を探しました。

　僕はそもそも勉強が嫌いで、量をこなすことを求める塾は無理でした。そんな頃、同じ部活の清水君にグノを強く勧められて転塾することにしました。

## 学校生活と塾の両立

**清水：**向田君にグノを勧めた僕ですが、中学時代は決して真面目ではありませんでした。サッカー部で部活中心の生活だったからです。気持ちが切り替わったのは高校に進学してからです。

高校生になると開成は高校受験で新しく 100 人くらい入学します。僕は「高校から入ってきた人たちに負けたくない」と思うと同時に、グノでできた他校の優秀な友達からも刺激を受けていました。部活を続けながら東大を目指したかったのですが、グノの環境だったので両立は可能でした。

**山本：**中高と吹奏楽部に所属していた私も、部活との両立についていつも考えていました。

学校からグノまでは 30 分くらいかかりますが、後コマがあったおかげで、部活後もギリギリ間に合いました。振替制度にも随分、お世話になりました。

**佐柄木 真由**さん（文Ⅲ・中央大学附属横浜）

こうしたシステムがあったからこそ通いやすかったし、「通いたい」という気持ちも続いたんだと思います。

**佐柄木：**私は中高ともに軽音楽部でした。自分たちの都合の良い曜日に部活を入れられたので、予定がバンバンになることはありませんでした。

でも、学校が神奈川県にあってグノからは遠く、毎週ギリギリで後コマに間に合っていました。どうしても放課後に用事があるときは振替できたのもありがたかったです。

**國枝：**中１から高２の秋まで他塾の英語に通っていましたが、膨大な宿題に追われて、部活や学校行事との両立は正直できていませんでした。部活は高３の４月末まで続けていて、学校行事は６月に音楽祭、９月に体育祭、11 月に文化祭がありました。

そんな状況の中、高２でグノの古文を受けたとき、宿題が 30 分程度で終わるプリント１枚だったことにとても衝撃を受けました。授業は復習できないと意味がないとわかっていたので、部活と学校行事で時間がなくてたくさんの宿題をやりっ放しになっている状態よりも、宿題は少なく授業の復習を確実にできるグノの方が続けやすそうだと思い、英語も転塾を決意しました。

グノには前コマと後コマがあるので、部活が終わってからも通えました。読解と作文の授業を、曜日を分けてとることもできて、とてもフレキシブルでした。

**清水：**開成では、学校の授業中に塾の宿題をしている人が中学からいました。内職をしてようやく塾の宿題が終わるのは正常ではないですし、僕は「絶対にそういうことをしたくない」と思っていました。学校に通って、学校でいろいろがんばって、プラスアルファで塾なのに、その優先順位が逆転しているのはおかしいと思います。だからこそ学校生活を応援してくれるグノが好きでした。

僕はサッカー部のキャプテンだったので、練習試合の日にコーチ間の話し合いで急遽試合が増えると、最後まで帰れませんでした。自分の試合が先に終わっていても、全員の試

**清水 響**さん（文Ⅱ・開成）

合が終わるまで待っていたかったんです。そういうときは電話をして、「後コマに出席してもいいですか？」とお願いすると、前コマを後コマに振替できました。

グノは柔軟に対応してくれましたし、急な振替でも受付の人は本当に優しくて助かりました。

**向田：**僕も部活で時間が厳しくなることが多くて、何度か後コマを利用させてもらいました。おかげで部活の練習で遅くなっても授業に参加できました。

長期休暇中、部活の合宿や試合がランダムに入って講習をまとめてとれないときでも、講習の２日はここで受けて残りはここで受ける、というように細かく区切って受講できました。

グノだったからこそ部活も休まずに両立できました。

## グノーブルの英語

**佐柄木：**私は「単語帳は要らない」という方針が好きでした。市販の単語帳を使って暗記する勉強はつまらない上に、せっかく覚えた単語でも別の意味で英文に出てくると理解できないことが多くて、腹が立つこともよくありました。

**向田 翔太**さん（文Ⅱ・開成）

単語帳を使わなくて英語を読めるようになるグノのやり方は本当にありがたかったです。

**國枝：**「単語帳は要らない」と言われて、最初は「大丈夫かな？」と疑問に思いました。

でも、語根や接頭辞・接尾辞で区切って語源から教えてもらえたことで、イメージで単語を覚えられました。日本語と一対一対応で単語を覚えていたときよりうまく解釈できるようになっていることにも気づき、グノの方針に納得しました。

単語の派生的な意味も語源から生まれていることが理解できたので、豊かな意味を持つ単語も圧倒的に覚えやすくなりました。自分で辞書を引いて調べるときにも自分なりに単語のイメージを膨らませるのがうまくなりました。

**向田：**単語を語源から覚えることに僕はハマりました。単語帳で覚えるよりはるかに楽に、応用の利く語彙力が身について本当に良かったです。

学校ではみんな単語帳を必死に覚えていて、意味の当てっこなどもしていましたが、僕は“単語帳アレルギー”だったので、みんなのように単語帳に触ることなく受験を終えられてありがたかったです。

**清水：**グノには、大手塾のような受験勉強っぽさがなく、かといって、留学を目指して英語にだけエネルギーを費やす塾とも違います。受験っぽくないけれど、別の方向に振り切っているわけでもなく、いろいろなことを両立できる良い雰囲気がありました。

授業は、先生が生徒をあてて、そのやり取りで進んでいくので、教室にいつも適度な緊張感がありました。授業の流れをリアルタイムで追いかけているから、自分が授業に参加している意識を常に持てましたし、集中力が持続するので授業効果も高まりました。

それに、要約や英作文もすぐに添削してもらえるので、よくできた日はうれしくて解説に集中できたし、ダメだった日も悔しくて集中できました。

**山本：**私の中では、授業の最初の要約演習がとても意義深く、毎週戦いのように挑んでいました。単なる小テストとは違って、英文を読んで内容を要約するのは総合力の勝負です。英文を正しく読む語彙力や文法力はもちろん、ある程度の教養や論理力がないと筆者の主張が見抜けません。表現力が不足していると字数内でうまくまとめることもできません。「要約で良い点をとりたい」という気持ちが強かったので、授業の知識面の復習や音読へのモチベーションが維持できました。

それから、グノの授業で扱う英文が興味深いものばかりだったこともモチベーションにつながりました。

**佐柄木：**先生が選んで用意してくださる英文は本当に面白いものばかりでした。受験勉強というよりも教養を深めるという感覚で、毎週楽しく通えました。面白い英文だったので音読での復習も楽しくできました。

## グノーブルの音読

**國枝：**僕は中学時代に通っていた塾で、あまりにも文法偏重の読み方を詰め込まれてしまいました。英文を読むときは、線を引いて SVOC を書き込んだり、名詞節や副詞節などを記号で囲って返り読みをする習慣がついてしまっていました。これだとものすごく読むのが遅くなります。東大入試同日体験受験を受けたら、時間が足りなくて、全く解き終わりませんでした。

グノに転塾して語順のまま読むやり方を教えてもらい、GSL *を使った音読を続けていくうちに英文を前からどんどん読めるようになって、読むスピードが格段に上がりました。

**向田：**要約の英文すべてに GSL が対応していて、いつでもどこでも聞くだけで復習になりましたし、音声を活かして、英語モードになるように耳も口も頭も鍛えられたのが良かったと思います。

音読は一番勉強っぽくない勉強でした。勉強している気にならないのにいつの間にか力がついているのが楽しいんです。

今では音読が大好きな僕ですが、音読の良さに気づいたのは結構遅くて、高２のときは先生に「音読をや

**山本 真愛**さん（文Ⅲ・都立国立）

＊ GSL（Gnoble Sound Laboratory）：中１から高３までの６学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。

りなさい」と言われてもサボっていました。

高３から音読を始めたら、英語を読むのが楽しくなって、楽しいから英語に触れる時間が伸びて、読むスピードもどんどん上がっていきました。

**山本：**サーッと読むだけの音読では意味がありません。授業の解説を聞いて、細かな言葉遣いも、もちろん筆者の主張も、全体の流れも十分にわかっている英文を、誰かに伝える気持ちで音読するから力がつきます。

私は先生から、椅子の上に立ってやるといいという話を聞いて以来、それを実践していました。小学生の頃にスピーチコンテストに出たことがあったのですが、当時を思い出しながら、椅子の上に立って、礼をしたり周りを意識したりして音読していました。生き生きと読めるようになってどんどん楽しくなりました。

**國枝 健**さん（文Ⅲ・筑波大学附属駒場）

**清水：**僕は途中まで、グノが推奨する音読をなかなかうまく使いこなせていませんでした。先生から「よくわかっている英文を何度も読もう」と言われても、僕にはその意味が理解できませんでした。「わからない文章を読んで解くのが入試だ」と思っていて、その練習をした方がいいと決めつけていたからです。

でも高３の５月頃から考え方を変えました。１回の授業で扱ったすべての英文の音読を、毎日続けるようにしました。発音がわからない単語は辞書で確認し、意味があいまいなところは授業ノートを見直して、英文の展開を意識しながら音読を続けているうちに、英語を読む感覚が構築されていきました。その感覚が構築されるにつれ、どんどん英語ができるようになりました。

音読の習慣が染みついてからは、黙読のときも心の中で声に出していました。学校の英語の授業でも、周りより読むのが速くなっていることをたびたび実感して、それがグノのやり方への信頼につながりました。

**佐柄木：**私は留学していたので、英語を英語のまま前から読むことはできていました。でも、学校の英語の授業では「主語を見つけて、これが動詞で……」という文法重視の読み方でした。もし、それに合わせていたら、英語のまま読む感覚を忘れてしまっただろうと思います。

グノに出会えて、英語のまま読む感覚をさらに研ぎ澄ませられました。

毎週の授業で読み応えのある興味深い英文を用意していただけましたし、自分では「読めている」と思っていても、深いところまでは理解できていないことに解説で何度も気づかされました。長くて複雑な内容の英文だと、読んでいるうちに英文の内容を忘れてしまうことも多かったのですが、音読を続けていくとそれもなくなりました。英文全体の構成を捉えながら読む力が伸びて、読むスピードは格段に上がりました。

**國枝：**僕も音読で読むスピードが上がりましたし、読んだところをしっかり覚えていられるようになりました。

そもそも一度読んだ内容を記憶して読み進めるのが苦手だと判明したのは、音読をしたからです。黙読では気づけないことに音読をしていると気づけるとわかったのは大きかったです。

僕は他教科でも音読をしていました。それは音読には３つの良さがあったからです。ひとつ目は純粋に楽しいこと。いつまででもずっと音読していられるので、勉強時間も増えました。ふたつ目は定着しやすいこと。声に出せば出すほど単語や事柄のイメージが脳に刻まれます。３つ目は読解力が身につくことです。

先生からも「生き生きと英語を読みなさい」と言われていましたが、感情を込めたり強弱や抑揚をつけたりして読めるところが黙読との違いだと思っています。黙読はよくわからないところがあってもパーッと読み飛ばしできますが、音読ではそれができません。読み飛ばさず、気持ちを込めて誰かに読み聞かせるように音読しているうちに、どういう順序で話が構成されているかも理解できます。これが読解力の向上にもつながりました。

## グノーブルの数学

**向田：**グノの授業方針で一番良かったのは「まずやってみよう」という精神が大切にされていたことです。それぞれの問題は意味があって用意されていましたが、まずは自分で答えを出すことに重きが置かれていました。

自分なりに考えて解答を作ってから授業に臨む形式なので、理解できていなかったところやつまずいていたところがわかります。問題を事前に解くのは大変ですが、自分で解けなかったときこそ深く刺さるものがあって、「こういうことなんだ」という納得も、「あっ！」というインスピレーションも得られる楽しい授業でした。この経験の積み重ねで数学が自分の武器になりました。

グノの数学の特徴といえばセルフチェックシートです。受験が終わってから振り返ると本当に大事だったとわかります。

セルフチェックシートには先生からの丁寧なコメントもいただけるので、自分で分析したことと先生の見方との違いも明らかになります。「こういう見方をすればいいのか！」「なぜ気づけなかったんだろう」という経験はよくありました。

**清水：**高１の頃は、問題をどんどんみんなが解いていって、解けた人から手を挙げて先生に見てもらう授業でした。競争みたいな要素もあってとても楽しかったです。

高２からは、受験を意識して得点できるように整えていく授業になりました。数学の場合、自分で考え手を動かして解けるようになった問題は次もできますが、解答を読んで理解できているだけの問題は、自分でもう一回解こうとしてもできません。先生のアドバイスに従って、手の動かない問題とその解答を B5 のルーズリーフ１枚にまとめていったら、僕の場合は 300 枚くらいたまりました。

そのたまった問題を「タグづけ」という方法で整理します。できなかったのがどういう問題なのかがわかるように、「三次関数」などのひと言で分野別に分類します。授業では「この分野にはこういう出題があってこういうふうに構成されている」という板書がなされるので、それを自分の実例に当てはめていって各分野を制圧していきます。

**佐柄木 真由**さん（文Ⅲ・中央大学附属横浜）

タグづけを通して「この分野は、これが来たらこれ」と考えられるようになり、受験学年の後半にはどの問題にもしっかり対応できるようになりました。

先生が体系立てて分類してくださっているので、グノのやり方に沿って取り組めば文系数学にはセンスは不要なのです。

## グノーブルの国語

**山本：**冬期講習と直前講習では東大国語を受講しました。

現代文の授業であてられる経験がそれまでなかったので、あててもらえて、先生とやり取りできるグノの授業は楽しかったです。

また、東大の過去問題集などの解答例は、解答に至るプロセスや解答自体に納得できないことがよくありました。

グノの先生の解答は納得できることが多く、納得できない場合でも、「私はこういう解釈なんですが」と気になることをこちらから発言しやすい雰囲気がありとても良かったです。

数回の授業でしたが、たくさん得るところがありました。

**佐柄木：**高３の４月から難関国語を受講していました。私はもともと国語が得意でも苦手でもなく、読書をするのと同じように感覚や雰囲気で解いていましたが、難関国語を受講しているうちに、現代文の文章構造を意識できるようになり、論理的に解けるようになりました。

古文・漢文の基本的な知識を身につけられたのも、センター試験の国語が解けるようになったのもこの時期です。

そのあと、志望校を東大に決めたので、９月からは東大国語の授業をとりました。

「東大の国語のコツは言い換え」

**清水 響**さん（文Ⅱ・開成）

と教えていただき、全く考え方がわからなかった過去問も解けるようになりました。わかりづらい表現は先生が巧みに身の回りのことにたとえてくださったり、雑談を交えて説明してくださったりして、授業は笑いが絶えませんでしたが、いつの間にか国語が得意になっていました。

**國枝：**先輩から「とにかくグノの国語はいい。古文単語を英単語と同じように語源から教えてくれて、意味を丸暗記するのではなくイメージを膨らませられる」と言われていたので、高２で古文を受講しました。

ハイテンションで楽しそうな先生の姿が衝撃的でした。「こんな面白い授業があるんだ」と感動しました。先輩の言う通り、単語の覚え方が丸暗記ではなかったし、添削も丁寧でとてもわかりやすかったです。

東大国語は、解き方のテクニックだけでなく、「全体を通して、この文章はこういうことを言っているんだよ」と具体例を交えてわかりやすく教えていただけたので、毎回とてもすっきり理解できました。

添削も、先生が僕たち一人ひとりの解答に寄り添って採点してくださるので、とても納得できました。

**清水：**高１のときは、「古文をとりあえず武器にしたい」と思って受講していました。

グノの古文は高１と高２合同クラスなので、「高２の人にも勝ちたい」という意識で受講していました。授

**向田 翔太**さん（文Ⅱ・開成）

業の最後の課題は先生が点数をつけてくれて、上位の人の点数が発表されます。その中に自分が入ったときはうれしかったです。

高２のときの現代文では人数が少なかったこともあって、先生がとても細かく見てくださいました。元気のある面白い先生だったので、高２で中だるみしていた僕にはいい刺激になりました。

高３の東大国語は笑いが絶えない授業で、疲れていたときや、つらかったときのオアシスにもなっていました。先生は他塾でいうチューターのような存在でもあり、いろいろ相談にも乗っていただけましたし、受験全体の情報も教えていただけて助かりました。

## 後輩へのアドバイス

**山本：**グノを信じて勉強すれば大丈夫です。

授業内では頭をフルに使って演習と解説を楽しんで、授業後にはそれを復習することを習慣にしてしまうことが大事です。文化祭や体育祭で忙しくても、「グノの勉強だけはやる」と決めて取り組むべきです。

都立高校の人もグノにもっと入ってほしいし、自分の高校にもグノの良さがもっと広まってほしいと思っています。

**清水：**東大を目指す人たちは誰もがある程度の勉強をします。でも、結果の差が生まれる要因には休憩のとり方の違いもあると思います。

僕は、良い休憩のとり方を見つけるのが大事だと受験終盤に気づきました。休憩がうまい人は勉強もうまいんです。例えば、グノの授業にはエネルギーを注ぐことになるので、前日は睡眠時間を多くするとか、授業の直前はコーヒーでも飲んで少しリラックスしておくといった感じです。

**佐柄木：**私も、受験で一番大切なのはメリハリをつけることではないかと思っていました。

私の場合は、学校では思いきり楽しんで、帰ったら勉強をしっかりするという日々でした。そのおかげで勉強疲れしませんでした。

私の学校は大学付属なので、受験勉強が最後まで続かずに妥協して、内部進学する人もいました。私は最後まで受験勉強を続けられましたが、それはグノに通ってグノの勉強で成長できると信じて努力したからです。

単語帳を使わないとか復習は音読とか、一般的な勉強とグノの勉強はかなり違う点もありますが、私はそれらを実際に取り組んで大きく伸びました。だからこそ、「絶対にグノの勉強を信じてがんばってください」と伝えたいです。

**國枝：**受験全体を通して、つらい時期がなかったわけではありませんが、結構楽しかったです。楽しくない勉強はすぐ辞めたくなると思うので、自分なりに楽しみながら成績が伸びる勉強法を見つけてください。

グノの先生がおっしゃる「こうした方がいい」に対して、最初は「それはどうなの？」と疑問を抱くかもしれません。僕はそういう姿勢も重要だと思います。

自分で考えながら実践していけば、「自分で決めたことはやり抜こう」と思えるし、それが成長につながります。主体的に行っていくのが伸びる勉強です。

**向田：**東大の過去問対策をするとわかりますが、東大受験で大切にされているのは基礎力です。基礎力があるからこそ将来の応用につながるのだと思います。

その基礎力を身につけられるのがグノの授業です。グノ生は授業を必ず復習して、基礎を徹底的に固めてください。

それから、人と一緒に勉強すると効率が悪くなるので、できるだけ勉強はひとりで集中した方がいいと思います。

**山本 真愛**さん（文Ⅲ・都立国立）





# 東京大学

# 理系

## 【座談会出席者】（五十音順、本文中敬称略）

### Part 1

おおむら かん
**大村 幹**さん
（理Ⅱ・都立小石川中等教育）

こさか ななみ
**小坂 七海**さん
（理Ⅰ・駒場東邦）

さいとう ゆうま
**齋藤 勇真**さん
（理Ⅰ・開成）

しいな あきと
**椎名 昭斗**さん
（理Ⅱ・駒場東邦）

しまだ りょうすけ
**嶋田 遼祐**さん
（理Ⅰ・駒場東邦）

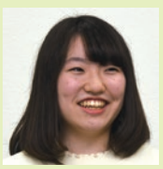
つじ はるき
**辻 春樹**さん
（理Ⅰ・駒場東邦）

なかやま たかし
**中山 崇**さん
（理Ⅰ・早稲田）

### Part 2

しょうじ かずき
**庄司 一毅**さん
（理Ⅰ・開成）

にし まりか
**西 真理夏**さん
（理Ⅰ・国府台女子学院）

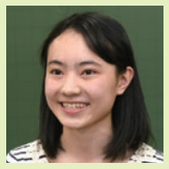


ひらやま あいり
**平山 愛梨**さん
（理Ⅱ・桜蔭）

みやもと たかひで
**宮本 卓英**さん
（理Ⅱ・開成）

### Part 3

かたやま すずね
**片山 鈴音**さん
（理Ⅰ・桜蔭）



ばば まなみ
**馬場 愛奈美**さん
（理Ⅱ・桜蔭）

まつだ りょう
**松田 竜**さん
（理Ⅱ・麻布）

# 東京大学 理系 Part 1

大村 幹（おおむら かん）さん（理Ⅱ・都立小石川中等教育）
齋藤 勇真（さいとう ゆうま）さん（理Ⅰ・開成）
嶋田 遼祐（しまだ りょうすけ）さん（理Ⅰ・駒場東邦）
中山 崇（なかやま たかし）さん（理Ⅰ・早稲田）
小坂 七海（こさか ななみ）さん（理Ⅰ・駒場東邦）
椎名 昭斗（しいな あきと）さん（理Ⅱ・駒場東邦）
辻 春樹（つじ はるき）さん（理Ⅰ・駒場東邦）

●PDFフルバージョンでは、「学校生活と塾の両立」、「グノーブルの先生」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet23/

**受験常識にとらわれない授業、これがグノに対する一番の印象です。大学に進んでも財産になっているグノの授業こそが、受験界の新しい標準だと思っています。**

**齋藤 勇真**さん（理Ⅰ・開成）

## 入塾のきっかけ

**中山：**高２の冬期講習から通い始めました。友人からは「グノは先生がフレンドリーに接してくれる」と聞いていました。

他塾との比較もしましたが、グノの方が英語のレベルが高く、受験勉強にとどまらないという点で好印象でした。

講習の授業が気に入り、数学も受講することにしました。

**辻：**グノを熱烈に支持していた友人から「グノがいい」と何度も聞かされたことがきっかけで、高２のとき、とりあえず夏期講習を受けてみたら、友人の話通りに良くて入塾を決めました。

映像授業でも大教室の授業でもなく、先生が本当に熱心に授業をしてくださるのが気に入り、英語と数学に通い始めました。

**小坂：**高１のときに受けた模試で英語の偏差値が 50 を割っていて、「英語を勉強しないと」と思い、塾を探しました。

他塾に通う友達は学校で塾の宿題をしている人が多く、それをやったら英語が嫌いになりそうな気がして、宿題の多い塾は避けました。ひたすら単語を覚えたり、構文の解析をするだけの授業も、言葉として死んでいるようで嫌でした。

**大村 幹**さん（理Ⅱ・都立小石川中等教育）

友達が「グノでは英語を英語のまま読むし、単語を語源から推測する」と言っていたのに心惹かれました。実際にグノの授業を受けて、友達の言う通りだったので入塾を決めました。

高１の秋に英語で入塾して、高２から物理を受講しました。

**大村：**高１の春に入塾し英語と数学を受講しました。漠然と「東大に行きたい」と考えていて、高校生になった段階で「塾に入ろう」と思っていましたが、大手予備校だと先生ではなくチューターとやり取りしなければなりません。僕はチューターと仲良くなるよりも、先生と親密になりたかったんです。

グノは先生との距離が近いと聞いていたのが決め手でした。

**椎名：**中３の秋に入塾しました。バンド仲間が誘ってくれて、「とりあえず行ってみよう」となったのがきっかけです。

「グノの英語は受験が終わったあとでも使える」と聞いていて、そこにも魅力を感じました。

僕は部活を一生懸命やっていたので、塾の宿題で時間を費やされるのが嫌でした。だから、宿題が多い塾には絶対に通いたくありませんでした。

**齋藤：**僕は中３の冬に入りました。

所属していたソフトテニス部の部長が、部活や学校行事と勉強を両立していて、模試でも良い成績でした。その部長が通っていたのがグノでした。

グノより歴史の長い他塾とどちらにしようか少しだけ悩みましたが、スケジュール的に厳しい塾に入るよりも、自分のペースで伸び伸び勉強できるグノの方が合っていると思いました。

**嶋田：**僕も中３の冬期講習の英語からグノに通い始めました。

東大や一橋大に合格した先輩全員がグノに通っていて、「グノはいい」と勧めてくれました。その下の先輩たちもグノ率が高くて、「グノは良い塾なんだろうな」とぼんやり思っていました。

他塾に通っている友達は塾中心の受験勉強ばかりになっていて、塾で教わっていない国語や社会が全然できないとか、学校の授業の実験をサボってレポートも出さないとか、学校生活がおろそかになっていました。

それを見ていた僕は「塾と学校の両立が大切だ」と思っていたので、グノに魅力を感じました。実際に講習を受けてみて雰囲気を確認して入塾しました。

## グノーブルの評判

**大村：**「英語がとても強い」と評判でした。僕は「数学も強いんだよ」とプッシュしていました。

**小坂：**駒東でも「英語がいい」という声が多いです。僕は「物理もすごいよ」と言っていました。

**椎名：**「英語がいい」という評判はその通りですが、グノに通っていてもグノの勉強をしなければ成績は上がらないと思います。成績は下の方でスタートしても、グノの教材を全部吸収するくらいの気概がある人たちはトップレベルまでどんどん成績を上げていました。

**小坂 七海**さん（理Ⅰ・駒場東邦）

**嶋田：**「グノに通えば英語ができるようになる」ではなくて、「グノのやり方できちんと勉強をすれば英語ができるようになる」という点を強調しないと、勘違いする人が出てきますね。

**中山：**早稲田の中では塾の話はあまりしないのですが、グノに通う人たちは、みんなグノが気に入っていて「良い塾だよね」と言い合っていました。グノの先生の話やグノの英文に関する話題で盛り上がることもしばしばありました。

**齋藤：**英語も数学も受験常識にとらわれない授業をする。これが僕のグノに対する一番の印象です。

英語は音読での復習や単語帳を暗記しない単語の覚え方など独特です。数学の自分と向き合うセルフチェックシートは他では聞いたことがありません。どちらも、受験界の常識ではあり得ないことなのかもしれません。

グノを経験したことがない人の中には、グノのそういう特殊な部分に不安を感じて敬遠する人もいました。でも、飛び込んでみるとすごく面白い塾で、大事なことをたくさん学べました。大学に進学しても必ず財産になるグノの授業こそが受験界の新しい標準だと思っています。

## グノーブルの英語

**大村：**「素晴らしい！」のひと言です。

高１の春から入塾しましたが、初回に読んだのが宇宙人に関する英文で、本当に面白かったのをよく覚えています。グノの授業で扱う英文は、勉強のためのありきたりな英文ではなくて、僕たちが興味を持てる新鮮な英文を先生たちが探して用意してくださるんです。

英単語の説明も、初めて聞いたときは「これはすごい」と感動しました。難解な語も先生が語源に立ち返って説明してくださると、単なるアルファベットの羅列から顔なじみにどんどん変わっていきました。ある単語から同じ語根を持った派生語へと、黒板上でどんどん展開されていく様子はまるで手品でした。

**齋藤 勇真**さん（理Ⅰ・開成）

先生の熱意にも気持ちを動かされました。「自分も勉強しよう」と思えたので、実際に取り組み始めてからの、英語の伸びはすさまじかったです。高１のときに受けた全国模試では英語は１桁の順位でした。もともと英語は好きでしたが、グノに入ってさらに面白くなりました。

**小坂：**グノは単語を語源で覚えるのを特徴にしています。その方針が先生たち全員で共有されていたので勉強しやすかったです。

僕は最初、あまりグノを信用していなくて市販の単語帳をやっていました。でも、グノの覚え方の方が圧倒的に楽しく単語を吸収できたので、途中から単語帳を使わなくなりました。

それから、先生が授業のために用意してくださる英文の中には、耳に残るフレーズや美しい文がいっぱいあって楽しく読めました。受験のための塾なので和訳もしますが、単語の並んでいる順番に訳していくので、英語を前から読んでいく習慣を確立するのに役立ちました。

毎週その場で添削もしてもらえるので、自分では気づかない間違いをすぐに自分の力に変えていくことができました。

**中山：**毎回添削してもらえる授業システムは本当に良かったと思います。要約も作文もその場で添削してもらえるので、漠然と英文を読んで問題にあたり、ただ解説を聞きながらメモしていく勉強にならずにすみました。

それに、授業は先生と生徒がやり取りしながら進んでいくので、なおさら授業中の集中はとぎれることがありませんでした。だから、グノの教室の中で流れる時間はあっという間なんです。

僕は「英語ができる人の頭の中を理解したい」と思っていました。この点、グノの先生は英語が堪能だし、英語ができるようになるメソッドや意識の持ち方を言語化してくださるし、授業のいろいろな場面で態度で示してくださるので、とても参考になりました。

筆者がどういう気持ちで英文を書いたのかも、先生の解説で理解できることが多く、英文の内容に深く踏み込む習慣ができました。

単語に関しても、ネイティブが未知の単語を見て意味を推測できるのと同じように、語源から解説してもらえたのが印象的でした。

**椎名：**以前は「英語は覚えるだけの暗記科目で何が楽しいんだろう？」と思い、受験科目としての英語は嫌いでした。英文の筆者は一語一語を選んで工夫して書いているはずですが、他塾はそこに重きを置かず、「受験で勝つためにはこう解けばいい」という点ばかり強調しているように思います。僕は「それは違う」と感じていました。

**椎名 昭斗**さん（理Ⅱ・駒場東邦）

グノの授業は、筆者の主張を理解し、筆者の表情が見えて息づかいがわかるぐらいまで深く読むことを大切にします。

しかも、いろいろな分野の英文が教材になっているから、いろいろな人の考えや気持ちを知ることができます。研究論文もあれば、勉強に対する基本姿勢について書かれたエッセイもあったし、経済に関するニュースもありました。

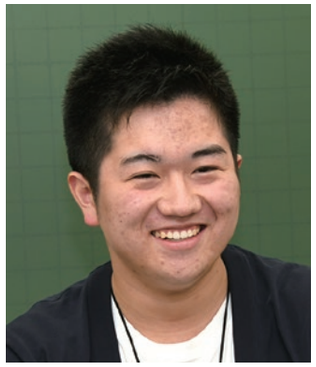
外国人が書いた文章には日本人の感性との違いが表れていて、それも面白かったです。「受験におさまらない英語はこんなに面白いんだ」と実感できて、英語が好きになりました。

こうした文章の読み方は、受験で重要なだけでなく、日本語でも大事です。グノの授業を通して、僕は生き方の方向性もつかめた気がしています。

**嶋田：**トピックがいっぱいあるのはその通りで、どんな英文に出会えるんだろうと毎週の授業が楽しみでした。

同じトピックでも真逆な内容が書かれている英文が授業で用意されることもあります。「こういう面から見ればこれは正しいけれど、こういう面から見ると正しくない」というのを意識するきっかけになりました。

例えば、アファーマティブ・アクションの話がありました。歴史的に差別されてきた性別や人種を優遇する制度がないと公平な社会は実現できません。でもそれが過剰になると逆差別になってしまいます。



**嶋田 遼祐**さん（理Ⅰ・駒場東邦）

このように対立する見解に触れることで、物事は一方的に見てはいけないと気づかされましたし、多面的な見方は、様々なトピックに応用できることにも気づけました。

深い教養や知の力が、身につくように促してくれるのがグノの授業です。

**齋藤：**グノの授業で扱う英文のジャンルは幅広くて、クオリティも高く、時事ネタもよく扱われて新鮮です。そういう英文を骨に刻み込むまで読み込むのがグノの一番の特徴だと思います。

分厚いテキストはありません。毎週、授業ごとに英文が配られて、それを徹底的に味わいます。英語が並んでいるだけの教材は見た目はとてもシンプルですが、先生の解説がものすごく詳細でいろいろな発見があって楽しめます。冠詞が“a”なのか“the”なのかという指摘だけでも「おぉ！」と感動することがあります。英文の背景についての解説を聞いていると面白みがどんどん増します。

それを思い出しながら音読して復習していると理解が定着し、「完全に自分のものになった」と確信できるようになります。それを積み重ねれば、東大の入試に出てくる英文でも「大したことない」と思えるくらいまでレベルアップできました。

## グノーブルの音読

**辻：**音読が復習の中心にあるのもグノの特徴です。

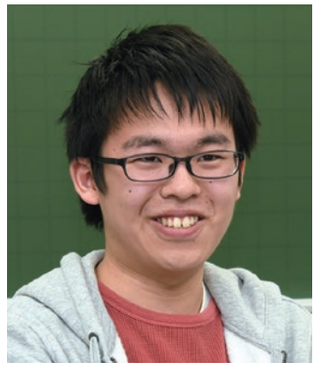
他にも音読を勧めているところもありますが、「とにかく音読しろ」だけでノウハウがありません。

グノでは、音読するのは授業で扱った英文です。演習して添削を受けて解説もすぐにしてもらっていますから、深く理解できている英文で音読ができます。

その英文にはGSL*もありますからネイティブの発音で耳と口も鍛えられます。

その上でプレゼンをイメージしながら意味を意識して音読するようにと、やり方も細かく説明されています。

そういう音読をしていれば英語を語順のまま解釈できるようにもなるし、英語のリズムや流れも身につきます。単語も文章との関連で覚えられるので本当に単語帳要らずでした。



**辻 春樹**さん（理Ⅰ・駒場東邦）

**嶋田：**グノのように復習として音読するという仕組みは他にはないと思います。

他塾だと毎週宿題をやっていき、授業で解説を聞くのが勉強の中心になりがちです。

そういう塾に通っている人たちに、「こういう英文を扱って面白かった」と言ってもなかなか伝わりません。そもそも授業で扱う英文が興味深いと思っている人がどれくらいいるのか疑問だし、先生もその英文や英文の背景の面白さを熱を込めて話すことはないようです。

グノだと「あの話面白かったよね」「そうだよね」と仲間内でも盛り上がれる楽しさがあります。そんなふうに、深く味わっている英文を音読するからこそ効果が高いのだと思います。

**齋藤：**例えば「音読を1日30分やりなさい」と言われてただ読んでいるだけだと、音読する意味がありません。単なる発音練習程度の効果しかないかもしれません。

グノの教材を使ってグノのやり方で音読を続けると、最終的には、目を左から右に動かせば一度で英文の内容が頭に入ってくる状態になります。

**小坂：**僕も毎日音読していて、「日本語を使わずに理解できた」という瞬間が段々と増えていきました。その積み重ねで英文を読むスピードも速くなりました。

**中山：**僕の場合、演習のときに難しさを感じた英文や、解説を受けて、自分が誤解して読んでいたことに気づかされた英文を選んで、1か月くらい連続で音読していました。課題の多かった英文の音読に絞ることで、自分がより成長できたように思います。

グノの先生は「プレゼンする気で音読しなさい」とおっしゃっていて、英文の意味と著者の気持ちの両方を把握するための音読という点を強調されていました。

ただ「音読しなさい」と言うのとは違って、音読のメソッドをきちんと教えていただけたので、機械的な音読にはなりませんでした。

**椎名：**僕も著者の気持ちになって毎日音読していました。「著者はどこを強調したかったのか？」を考えながら音読を続けていると、初めて読む英文でも「多分ここを強調したいんだろうな」という感覚が培われます。

**中山 崇**さん（理Ⅰ・早稲田）

**辻：**音読をしていると黙読とは違う気づきがあります。授業の解説を聞いて理解していたつもりの英文が、実は理解していなかったことが判明する場合もあります。5回目の音読でわかっていたつもりのことが、10回目でわかっていなかったことに気づくときもありました。

繰り返し読むことで自分の理解の範囲を把握して、その浅さを補っていけるのが、僕にとっては音読のメリットでした。

**嶋田：**授業中に解説を聞いて、そのときはわかった気になっているけれど、著者の気持ちにまではなかなか踏み込めません。

音読を繰り返すと、「この人は、こういうことを言いたいから、この表現を使ったんだ」などとわかってきて、自分が著者になった気分で読めるようになります。

その結果、英文を読んで理解するのが速くなりました。読解のスピードだけでなく、リスニングの力も伸びました。僕はリスニング対策をしていませんでしたが、GSLを使って毎日音読していたら、音が自分の中に染みつきました。他の人がリスニングで聞き取れなかった単語でも、僕は聞き取れることが多くなりました。

**大村：**黙読は「書かれている文章を

＊GSL（Gnoble Sound Laboratory）：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。

**大村 幹**さん（理Ⅱ・都立小石川中等教育）

吸収しよう」という姿勢で読むけれど、音読は「書かれている内容を人に伝えよう」という姿勢で読むことになると思います。理解するのが目的の黙読よりも、理解して人に伝えるまでが目標の音読の方が、より高度なトレーニングになります。

## 英語の力が伸びた時期

**大村：**グノに入ってから数か月後にガーッと成績が上がりました。それまでは、英語が好きでも標準的な成績でしたが、一気に伸びてグノの効果を実感しました。

グノの英語は面白いから、何回も目を通しているうちに自然と定着します。ネイティブが英文を作るときの考え方や単語の意味もいつの間にか覚えていて、必死になって勉強したわけでもないのに伸びていました。

**小坂：**伸びた時期は２回ありました。

１回目は僕も大村君と同じで、高１の秋に入塾して数か月後に、試験の成績がアップしました。それまで英語が嫌いで苦手でしたが、英語で点をとれるようになり、英語が主戦力になってくれました。

英語が嫌いだったときは英語に向き合うのが嫌で目を背けていました。でも、グノに入ってからは、毎日英語と対話するようになって、着実に結果がついてきました。そして、英語の成績が上がれば上がるほど自分から英語と向き合いたくなって、自然と大好きになっていました。

もう１回が高３の12月です。「椅子の上に立ってプレゼンしているつもりで音読してみよう。そうすれば全体が見えてくるよ」と先生がおっしゃっていて、それをやってみたら、本当に英文の全体を見渡せるようになったんです。人に効果的に伝えられる読み方になって、成績の伸びにもつながりました。

**齋藤：**僕も２回伸びを実感しました。

１回目が高１です。中３の夏休みに他の予備校でセンター試験レベルの模試を受けて全然解き終わらず、「ヤバイ」と危機感を抱いて猛勉強しました。高１の夏休みにも同じ模試を受けたら、50分で終わって30分も余りました。「来たな、コレ！」という手応えがあってとてもうれしかったです。

２回目は東大入試本番です。当日の僕は、英作文に時間をかけすぎてピンチに陥りました。プレッシャーがかかっている状況で最後に残っている問題に突入したのですが、それは３ページにも及ぶ長い英文を読まなくてはいけない空所補充の問題でした。このとき、日本語は脳のどこにもない状態で、今まで感じたことがないスピードで英語を読めたんです。

他の人に聞いたら、自分の倍くらい時間をかけて解いた人もいて、ここで一番の成長を感じました。

グノは問題を解くのではなく英語をきっちり読むことに誠実に向き合う塾なので、それが成果として表れたんだと思います。

**椎名：**伸びたのは遅い方でした。

高２まではあまり勉強していなくて、高３の模試でも、英語がずっと足を引っ張っていました。

「英語は結構、面白いんだ」と思い始めたのは高３の初めの頃で、それから苦ではない英語の勉強が始められました。苦ではないからコツコツ積み重ねられて、成果が出始めたのは秋くらいからです。

ちなみに、同じクラスにいた嶋田君が毎回マウントをとってきました（笑）。それも悔しくて、最初は嫌々でしたが音読していくうちに、英文の楽しさに気づいていったのです。

**嶋田：**中３の冬にグノに入ったときはEGGS（エッグズ）*からのスタートでした。その当時は中１レベルの英語力しかありませんでしたが、担当の先生に、いろいろと質問させていただいたり、相談に乗っていただいたりして、「先生がこれだけやってくれるんだから、がんばろう」と思いました。

グノで扱う英文のトピックは面白いんだと気づいたのは高１で、高１の秋にはαに上がれました。ところが、高２の冬にはまたα２に落ちてしまいました。椎名君に要約の点数で自慢していたのにクラスが落ちてしまい、次のクラス分けテストで絶対にαに戻りたいという思いで、このときは英語を全力で勉強してαに戻りました。

最後に伸びを実感できたのは受験直前です。センター前にセンター試験の過去問をパッと見たら一瞬で読み終わって、「この感覚でいけるかも？」と思って東大の英文を読んだらこれも読めて、「簡単じゃん！」となりました。このときにガーッと伸びて、受験本番も勢いで乗り切りました。

**辻：**僕も音読していくうちに、文章の深さや懐の広さやトピックの良さに段々気づいていきました。

**小坂 七海**さん（理Ⅰ・駒場東邦）

＊EGGS（English Grammar Green Session for newcomers）：英語が苦手になってしまった一般生のための、通常クラスに入る前に英文法の基礎を補完する講座。



夏休みくらいから知的な楽しさに目覚めて、「英語が楽しいから勉強する。伸びるからもっと楽しい」という良いサイクルが確立されました。

特定の時期に伸びたというわけではありませんが、これが僕の伸びだったと思います。

**中山：**僕の場合は、成績が上がったというよりも、意識が変わる瞬間を何度か経験しました。

**齋藤 勇真**さん（理Ⅰ・開成）

入塾した当初は、面倒くさくて音読をしていなかったのですが、添削してもらえる要約でひどい点数を何度もとり、「音読でもしてみるか」と思って始めてみて、しばらくしたら満点がとれました。英文が楽に読めるようになったので、頭を筆者の主張に向ける余裕が生まれたからだと思います。

クラス分けテストでひとつクラスが上がったら、また要約の点数がとれなくなりました。英文の難度が上がって、当時の自分では論理を追いかけられなくなっていたのだと思います。

でも、どう考えればいいのかを先生がきちんと指導してくださったので、改めて誠実に英文に向き合おうと意識が変わり、さらにひとつ上のクラスに入れました。

高３の終わり頃に、また伸び悩んでいたので先生のところに相談にいきました。このときは、先生に向かって話している最中に、「英語を読めても、それを日本語にきちんと変換する力が足りない」という自分の弱点に自分で気がつけました。そのとき受けた先生からのアドバイスを意識したら最後にまた伸びました。

## グノーブルの数学

**中山：**グノの数学は「どうしてその問題に対してこのアプローチをするのか？」を先生がきちんと言語化してくださるのが特徴です。

そういう教え方をしている先生は他にもいるのでしょうが、グノの先生は独善的ではありません。「こういう問題にはこういうアプローチがこういう理由で有効だ」と理屈を教えてくださる一方で、人間らしさがあって接しやすい雰囲気でした。

「どうしてこういうことをすると解けないの？」という生徒の疑問に対して、先生は真摯に答えて、生徒の気持ちを理解してくださいます。

**大村：**数Ⅲの授業は衝撃的でとても楽しかったです。

プリントは配色まで工夫されていて、言葉遣いもかっこいいし、内容面でも別解が豊富でした。過去の天才的なグノ生が残してくれた解答が取り上げられていて、「ぜひそれを自分の中に取り込みたい。これは勉強するしかない」とやる気になりました。

直前期のテスト演習では成績優秀者の実名が載るので、「載りたい」と思ってがんばりました。

**辻：**受験学年後期のテスト演習が素晴らしかったです。

前期の問題が後期のテスト演習のための下準備になっていて、前期と後期が一体となって完成するのが特徴です。数ⅠAⅡBはどうしても使う道具が多くなりますが、それをどういうタイミングで使うのかをグノでは教えてくれます。「こうしたいからこうする」「これが邪魔で消したいからこれを使う」など、一つひとつの道具について意味づけがはっきりしているので、どの道具を使えばいいかが明確化されました。

**中山：**テスト演習はものすごく手をかけて作られています。「この４問を出すために、前期でこの問題とこの問題を入れていたんだよ」と先生から言われて実際に前期の内容を見返してみると、しっかりリンクしていました。大局的な視点に立って効果が上がるように整備された、完璧な問題選びが随所に見受けられるんです。

先生は生徒一人ひとりのことを考えて、真摯に教材を用意してくださっています。英語にも共通しているグノの良さだと思います。

**齋藤：**数学は、問題と一対一対応で解答を教えられることが多い科目です。その結果として「数学は運だ、センスだ」と言われます。予備校の解答の講評でも、「数学的センスを問われている」などと書かれていて、僕は「どうして？」と疑問でした。

その点、グノの数学は、運やセンスに頼らないで論理的に解けるように授業が構築されています。グノの授業が世間一般とは違っていることを実感していましたが、それを自分なりに吸収して数学の底力を養いました。

本番は自分の得意分野が全然出ませんでした。でも、運やセンスに頼らない勉強をしていたからこそ、しっかり部分点を稼いで合格できたと思っています。

**大村：**授業内テストでは、自分が犯

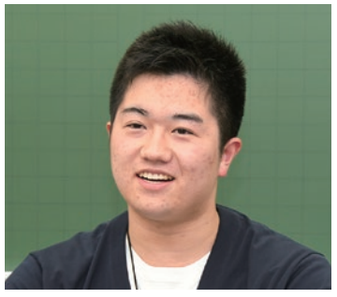
**椎名 昭斗**さん（理Ⅱ・駒場東邦）

した間違いをセルフチェックシートに綴りました。最初は面倒だと思っていたセルフチェックシートですが、自分のミスの傾向や足りない分野が明白になるにつれて、その良さを実感できるようになりました。

数学は量が膨大なので、受験直前期に何をするかが大事です。そんな時期にセルフチェックシートを眺めることで自己分析することができ、役立ちました。

**辻：**セルフチェックシートを通して、間違うということに対して敏感になりました。「こういうミスをして自分は間違えるんだ」と記憶に残るので、間違いを次に活かせます。

僕は時々、感情的なことをバーッとシートに書くことで記憶の結びつきを強めていました。感情的なことに対しても先生のコメントが返ってきて、先生が一人ひとりをきちんと見てくださっているのが伝わってきました。それがとてもうれしかったです。



**嶋田 遼祐**さん（理Ⅰ・駒場東邦）

**齋藤：**セルフチェックシートはダラダラ書くのではなく、自分がつまずいたところに潜んでいた原因を端的に書いて蓄積していきました。自分のエラーや至らないところをひとつずつ着実に潰すのに使っていました。

先生は、問題や単元にとらわれず全分野を横断的に、僕の悪いくせを見抜いて指摘してくださいました。そのくせは自分では見えづらいので、本当にありがたかったです。

## グノーブルの物理

**小坂：**グノの物理は、グノ独自のまさに唯一無二の授業でした。

歴史の順番に沿って、「この物理学者はどういう考え方をしてこの法則を発見したのか？」を学びます。「定数をここに置いたらこの現象をうまく理解できる」とか、「こういう考えからこういう理論が発生するのは自然だ」とか、そういう歴代の科学者の考え方を順番に追っていくのはわくわくしました。

物理的な思考力を自然と習得できて、物理の問題を解く力も伸びました。

僕はもともと物理が死ぬほど嫌いでした。「どうしてこんな学問があるんだろう？ 二度と勉強したくない」と嫌悪感を抱いていましたが、グノの授業に通い始めたらとても楽しくて、「大学で物理を勉強したい」と思うほどになりました。

先生の人柄が良く、話の幅も広いのでいつも聞き惚れていました。面白い話に引き込まれていくうちに、物理が大好きになりました。

## 後輩へのアドバイス

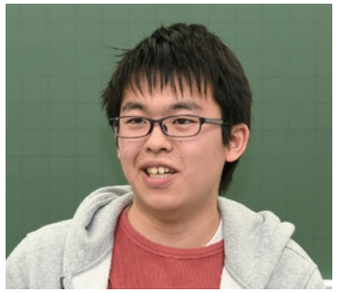
**大村：**勉強は「楽しい」が原動力なので、好奇心を刺激してくれるグノに通っていれば大丈夫です。

数学のセルフチェックシートなど、「回り道」と思うものもあるでしょうが、手を抜かずに続けていけば、最後の最後でその価値が体感できます。

グノの先生を信じてしっかり積み上げていってください。受験直前で自分の積み上げてきたものの高さに気づいてそれが自信になると思います。

**辻：**大村君と同意見です。グノのすごさはあとになって実感できます。

最初は、英語の語源や音読、数学の膨大な板書をノートに写す作業など、これは普通の受験勉強と違うと



**辻 春樹**さん（理Ⅰ・駒場東邦）

いう印象を受けるかもしれません。

それでもグノは間違いありません。グノの指導法こそ本質をついています。あとになってから本質が間違いなく見えてきます。

**小坂：**僕も先生を信じることに尽きると思います。

グノに入った直後は、他塾と違いすぎることに戸惑って、「本当にこれでいいの？」と疑問を持つこともあるでしょう。

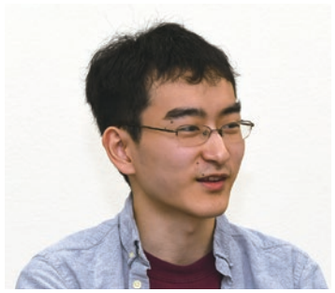
でも、勉強が楽しくなることと、それに伴って成績が上がってくれば、「グノのやり方が正しかったんだ」と実感することになります。

**齋藤：**グノの勉強法はけっして突飛なものではありません。むしろ、今までの受験の常識にこそ疑問にさえ思われずに踏襲されてきたものが多いのだと思います。

気になることがあったらグノの先生のところに質問にいってみるといいと思います。明快な答えが返ってきて、自分でも「この勉強法にこういう効果があるんだ」とか「この勉強法ではこの能力が伸びるんだ」とわかって、とても前向きな気持ちで勉強に向かえるようになります。

少しやり続けてみれば成績もついてくるので安心できます。高3の大事な時期に入ったときには、自分なりの工夫を入れつつグノの勉強を活かせるようになります。

**椎名：**グノの英語は、言語を学ぶ本質がわかるような授業です。先生のおっしゃることを聞きながら、本質を考えつつ、受験にとらわれないで



**中山 崇**さん（理Ⅰ・早稲田）

楽しみながら勉強しましょう。そうすれば、英語が得意になるはずです。

**中山：**皆さんと同意見です。疑問点があれば迷わず先生に相談することが大切です。

グノはメソッドがしっかりしている分、自分の意識を高めていくことも求められますが、それは当然だと思います。受け身でも授業を受けてさえいれば成績が上がるとか、大量の問題を解いていれば思考力が伸ばせるということの方が変なのだと思います。

グノの勉強を主体的に楽しんでいくことが成功の秘訣です。

**嶋田：**グノのすごさを実感できるのは、きちんと積み上げてきた人です。先生を信じて努力し続けることが大切です。そうすれば勉強そのものが楽しくなります。

直前期になればなるほど、ピンポイントで伸ばしたいところが出てきますが、このときにグノで教わったことの意味がわかっていると、それを使ってさらにひと伸びできます。

# 東京大学 理系 Part 2

庄司 一毅（しょうじ かずき）さん（理Ⅰ・開成）
平山 愛梨（ひらやま あいり）さん（理Ⅱ・桜蔭）
西 真理夏（にし まりか）さん（理Ⅰ・国府台女子学院）
宮本 卓英（みやもと たかひで）さん（理Ⅱ・開成）

●PDFフルバージョンでは、「英単語の覚え方」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet23/

**音読は長期的に継続することで効果が出てきます。**
**グノの音読は、音声教材でネイティブの音声を聞きながら自分でも発音します。**
**そうやって耳と口を鍛える練習をしているうちに、リスニングの点数も大きく伸びました。**

**西 真理夏**さん（理Ⅰ・国府台女子学院）

## 入塾のきっかけ

**庄司：**きっかけは高1のときです。英語が苦手で学校の定期テストすら大惨事だったので、英語を強化できる塾を探していたんです。

いろいろな人から「英語といえばグノ」と聞いていたし、友達全員から勧められたこともあって、グノにしました。

英語だけのつもりでしたが、途中から数学も受講しました。

**平山：**私は高1の夏期講習から入塾しました。「英語に力を入れている塾に入りたい」と思い、塾探しを始め、宿題が多いところは初めから候補から外しました。

グノには部活の先輩がたくさん入っていて楽しそうだったこともあり、夏期講習を受けてみることにしました。実際に講習が良かったので、2学期以降もそのままグノに通い続けました。

**西：**私も高1からですが、最初に受講したのは国語です。国語が中学生の頃からとても苦手で、「東大を目指したい」と思ったときに危機感を抱いていたんです。以前グノに通っていた姉が「グノの国語、いいよ」と強く勧めてくれたこともあり、実際にグノの授業を受けたら、とても面白くて「ここでがんばろう」と思いました。

庄司 一毅さん（理Ⅰ・開成）

英語は高１の３学期から通い始めました。「英語をしっかり学べる塾に入りたい」と思っていましたが、やはり姉や、それから友人からもグノを勧められて講習を受けてみることにしました。初回の授業から気に入りましたし、宿題が負担にならない量だったことも決め手になって入塾しました。

**宮本：**僕は中１のときから英語に通っていました。兄がグノに入ったので一緒に、という流れです。

高１では古文も受講しました。グノは宿題の負担が少なかったので、学校生活と両立できたのも良かったです。

## グノーブルの音読

**庄司：**グノの英文は使い捨てではありません。授業で解説を受けて十分に理解している英文をひたすら音読して自分になじませるんです。

先生はスポーツや楽器演奏の練習と外国語の練習は同じだとおっしゃっていましたが、同じ英文を読み込んで慣れていくのがグノの音読です。授業で理解したつもりの英文でも、家に帰ってみると１回目の音読から詰まってしまいます。それでも何度も何度も音読することで、段々スラッと読めるようになります。

その過程で、新しい単語や表現も、英文の中でしっかり理解できるし、英語のリズムや流れもわかるし、英語らしい文の組み立てにもなじめると思います。第一、英文をスラスラ音読できると「伸びている」と実感できてうれしくなります。

**西：**私は高２の３学期、グノでの受験学年が始まってから本格的に音読を始めました。普段は寝る前に30分くらい、時間がなくても最低10分は毎日欠かさず取り組みました。それまでも、授業前に自分の頭を英語脳にするため、音読にちょっとは取り組んでいましたが、そんなにがっちりはやっていませんでした。

音読は長期的に継続することで効果が出てきます。

グノでは、受験学年の読解の授業は毎回、英文の要約演習をして、それを先生に提出して添削と採点をしてもらいます。高２の３学期の間は毎週散々な結果でした。要約をするには、筆者の主張をちゃんと見抜いて、英文全体の構造をつかむ必要があります。それが私には難しくて高３の１学期の間は、クラスでもずっと下の方だったんです。

でも、グノの先生の言葉を信じて毎日音読を続けていたら、最終的には難しかった要約の点数も上がっていきました。

それから、グノの音読は、音声教材でネイティブの音声を聞きながら自分でも発音します。そうやって耳や口を鍛える練習をしているうちに、リスニングの点数も大きく伸びました。

**宮本：**確かに続けることは大切です。

僕は最初、音読は日本人にはきついと思っていました。でも、続けていると、音声が脳内に勝手に流れてくるようになるんです。それが英作文を書くときにサンプルになるので、英作文の点数も伸びました。英作文で困って「何かないかな？」と考えるとき、音読した英文はとても思い出しやすかったです。

**平山：**私の場合も、音読が英作文の役に立ったのは確かです。音読していると、英文の構造や表現について、「これが自然なんだな」ということがわかってきます。

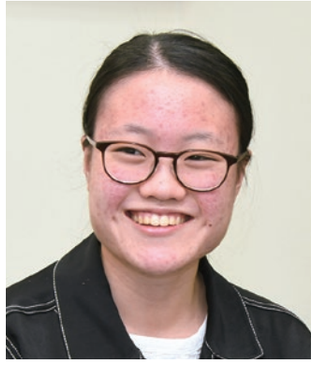
**庄司：**僕は音読するとき、内容を意識していました。英文の確実な理解はもちろん、さらにそれを自分が表現するというイメージで、プレゼンするように音読していました。

黙読でも頭の中で声に出しているつもりで読むことはできますが、実際に口に出してみることで得られる効果があります。口に出してみると舌が回らなかったり、イントネーションがうまくつかめなかったりすることがあります。練習してそうした部分を解消していくと、読解のスピードがアップします。

**西：**私は、中学受験や高校受験をしていなくて、受験というものがどういうものかわかっていませんでした。物心ついてから初めての受験がセンター試験だったので、当日は緊張しすぎて昼食を食べられず、貧血気味になりました。でも、英語の問題用紙を開いたら英文がスラスラ頭に入ってきて、読解問題は満点でした。音読をやっていたから救われたんだと思っています。

## グノーブルで扱う英文

**平山：**グノは英文自体が面白かったのも特徴です。



西 真理夏さん（理Ⅰ・国府台女子学院）

平山 愛梨さん（理Ⅱ・桜蔭）

英語のニュースが教材になることも多く、哲学や科学の話題もあって、「こんな考えがあるんだ」という驚きの連続でした。

英語を学ぶだけでなく、それ以上に社会勉強みたいになっていて、それが本当に刺激的でした。先生の話を聞くだけでも楽しくて仕方ありませんでした。

**西：**授業で扱う英文のトピックは時事関係のことも多くて助かりました。受験勉強中は基本的にテレビでニュースを見なかったので、社会にどういう意見を持っている人がいるのかを深く知る機会がありませんでした。

でも、グノの教材を読んで、先生の話を聞いて、「こういう考え方をする人もいるんだな」と知ることができました。

**宮本：**時事的な教材だけではなく、科学や医学の話題、経済や社会学などいろいろな英文に触れられました。他にも哲学の話題を扱うときもあって、いつも新鮮でした。

**庄司：**自分の知らないことを英文で読めたので、そのことを僕は音読の表現にも活かしました。それを知らなかった頃の自分やまだ知らなさそうな人を目の前に思い浮かべて、「実はこうなんですよ」とプレゼンするつもりで音読していました。気持ちを乗せやすくなって、とても音読しやすかったです。

## 英語の力が伸びた時期

**平山：**中学生の頃、学校内では英語は問題ありませんでしたが、高校に進学する直前に受けた全国規模の模試で、学校の英語との違いを感じました。全然わからない問題もあって怖くなってしまいました。

グノに入ってから半年後にまた模試を受けましたが、そのときはちゃんと解けて、「伸びているんだな」と安心しました。

グノでは、文法もしっかり教えてもらえましたし、かなりの長文を毎週たくさん読めました。英文の背景まで先生は解説をしてくださるのでよく理解できます。グノの授業は毎週完結型なので、１週間かけての復習もやりやすく、それでいろいろな力が定着したんだと思います。

**庄司：**僕も入塾直後に英語力の伸びを実感できました。

そもそも僕は、グノに入るまで英語を体系的に勉強したことがありませんでした。英文は主語述語の順番に並ぶということや、動詞が目的語をとる・とらないといったことも知らず、ただ単語が並んでいるだけの英文をどう読んだらいいかがわかっていませんでした。

そんな状態から、グノで英語の仕組みをひとつずつ教わり英文を読めるようになりました。この経験はかなり大きかったです。

その後、英語力は少しずつですが着実に上がっていきました。特に印象的だったのは高３の秋です。それまでは要約演習で思うように筆者の主張が見抜けなくて、的外れなことに重点を置いてまとめてしまう状態が続いていましたが、自分の中で押さえるべきポイントが見えるようになったんです。模試の要約問題でも満点をとれるようになりました。

グノのやり方で学んでいれば、文法理解の上に、単語の力も身につきます。単語を語源から学んでいるから文脈の中で生き生きと捉えられるようになるんです。プレゼンみたいに長文を音読する経験を積み重ねてどこまでも英語力を伸ばせるような気がしました。

実際に、入試直前期にも伸びを感じられたので、その成長が本番に向かうときの心の支えになりました。

**宮本：**僕は中１からグノに通っていましたが、真面目に取り組んでいなかったこともあって、伸びを実感するまでに時間がかかりました。

高３で毎週の要約演習が始まり、それまでは表面的に読めていただけで、実は深くまではわかっていなかったということがはっきりして、そこから本気になって取り組み始めました。

段落ごとに言いたいことがすっきりわかるようになったのは、僕も庄司君と同じで高３の秋になってからです。

**西：**グノには高１から通い始めていましたが、偏差値が大きく上がったのは高２の後半に学校で模試を受けたときでした。長文読解が好成績で、長い英文をしっかり読めるようになったのは、グノで興味の持てる英文をたくさん読めたからです。

高３の受験直前期にもうれしいことがありました。高３に入ってからは全然できない理科に勉強時間を費やしてしまい、得意な英語は後回し

宮本 卓英さん（理Ⅱ・開成）

になりがちでした。英語の勉強は続けていましたが、自分で英語力の伸びを実感するほどのことはありませんでした。でも、直前期に過去問の添削をお願いしたとき、先生からうれしいコメントをいただけました。１年間見ていただいてきた先生からのコメントなので自信になりました。

東大受験の１日目の国語は、できたのかどうか自分でもわからない結果でした。数学は、「この問題は解けないといけない」と思う問題がいくら考えても解けませんでした。解答用紙が回収されているとき、その問題の解答欄が真っ白な人は私以外にひとりしかいなくて、１日目の試験の帰りは落ち込みました。

でも、２日目は私が一番好きな英語だったので、「英語で絶対挽回してやる」と諦めませんでした。最終的には無事、東大に合格できましたが、英語に救われたと思います。

## グノーブルの数学

**庄司：**数学は高２から受講しました。

僕は小学生の頃、パズルチックな算数はとても得意でした。でも、中学で数学の勉強をサボり続けたので、知識の活かし方がわからなくなりました。数学は嫌いではないし、「やればできるんだろう」と思っていましたが、実際には全然できませんでした。模試で問題を見ても最初のとっかかりが見つけられないんです。答えを見れば「ああ、そうか」となるんですけれど……。ですから、点数的にはどう見ても数学が「苦手科目」になっていました。

そんな壊滅的な状況でグノの数学に通い始めましたが、先生が褒め上手で、僕はすぐにやる気になりました。少人数制で先生が一人ひとりをよく見てくださるので、早い段階で点数もとれるようになって、クラスも上がりました。

上のクラスでも、先生が一人ひとりをしっかり見てくださるのは同じでした。僕が「こういう問題は、計算が多くてやる気が出ません」という甘えたことを訴えても、先生は僕に合わせて的確に導いてくれました。

数学の各単元を日本語で分析して、自覚的に道具の使い方を把握していくグノのスタイルは僕にはぴったりでした。問題を解きっぱなしにすることなく、１回解いた問題を深く深く掘り下げていくグノのやり方の積み重ねで、「一番楽しく勉強できるのも、受験で武器にできるのも数学だ」という気持ちになりました。

東大受験では、理系の場合は数学の比率が大きく、合格発表を見る前に、数学の出来不出来で合否がわかってしまいます。本番では数学が面白いように解けました。１日目でアドバンテージをとれたので、２日目は「ちょっとくらい失敗しても大丈夫」と、楽な気持ちで臨めました。

**庄司 一毅**さん（理Ⅰ・開成）

## グノーブルの国語

**西：**中３のときは国語が全然できなくて、特に古文はわけがわかりませんでした。模試を受けても、古文は壊滅的でした。

でも、高１でグノの古文を受講したら、古文が得意になり、中３のとき偏差値 35 くらいだった国語が、高１では偏差値 70 にまでなりました。

**宮本：**僕はもともと学校で古文・漢文にきちんと取り組んでいて得意でした。「もっと伸ばそう」という気持ちでグノの国語を受講したおかげで、国語に全く触れない時期があっても成績を維持できました。

**西：**高１で古文の通常授業を受講したあとも、グノの講習で国語をとっていました。

私はもともと本を読むのが嫌いでした。日本語の長い文章を見るとウワッとなってしまうほどだったので、読む気にもなりませんでした。

でも、グノで現代文を教わったあとは、文の読み方、楽しみ方がわかり、最終的に抵抗もなくなりました。今ではちゃんと読書を楽しめます。中３までの状態のままだったらと思うとぞっとします。本当にグノの国語に通って良かったです。

**西 真理夏**さん（理Ⅰ・国府台女子学院）

## グノーブルの先生

**庄司：**グノの先生は、生徒一人ひとりにちゃんと目を向けて話をしてくれます。だから解説のとき、ときどき先生と目が合います。先生の質問に対して「わかるよ」という顔をしているとちゃんとあてて答えさせてくれることもあります。

質問に答えられないときにも、「じゃあこれは？」と答えられる別の質問に切り替えて、僕たちが推測したり思い出したりできるようにしてくれます。

いつの間にかアクティブに参加している授業の場を先生がつくってくださるので、グノでは授業中に寝るなんてことが全くありません。

**平山：**先生がすぐに生徒の名前を覚えてくださることだけでも感動しました。先生が私たちの名前を呼んでくださるので、授業が一方的にならず、とても集中できました。

それから高２のとき、たまたま塾に寄ったら、先生から「修学旅行どうだった？」と聞かれてびっくりしたのも覚えています。先生が私たちのことを見てくれていて、関心を持っていてくださると安心できるし、やる気もおきます。

**西：**グノで初回の授業を受けたとき、先生がすぐにみんなの名前を覚えてくださったのには私も驚きました。先生に親近感を覚えました。

授業前も授業後も先生とよく世間話をしていましたが、会話を通して先生との信頼関係を築けたと思います。とても楽しかったです。

**宮本：**グノの先生は、本当に名前をすぐに覚えてくれますよね。例えば、講習でお世話になっただけの先生でも、座席表にメモした名前を読み上げるだけでなく、次の日には全員の名前を完全に覚えてきてくださっていました。「親身になってくれているんだ」と実感しました。

**庄司：**高３になって最初の授業で、僕は一番前の席に座っていて衝撃を受けました。

英語のクラスには 30 人ぐらいの生徒がいて、先生はご自身が作った座席表の紙を机の上に置いていましたが、解説が始まったときにはその座席表を全然見ていないんです。それなのにどの生徒も名前で呼んでいて、本当に上から目線の言い方になりますが、「この人教師としての能力高すぎだろ！」と思いました。そして、「この先生の言うことを全部聞こう」という気持ちになりました。

**平山 愛梨**さん（理Ⅱ・桜蔭）

## グノーブルの環境

**平山：**とにかく受付の方が優しくて、振替などの相談をしても、親切に丁寧に答えてくださるのが印象的でした。私は電話がとても苦手なのですが、電話でも受付の方がとても丁寧で怖さがなく、話しやすかったです。

**西：**私も、受験直前期に振替が多くなってスケジュールがぐちゃぐちゃになりましたが、受付の方が１回で「わかりました」と対応してくださって助かりました。受付の方は全員、優しくてフレンドリーな雰囲気で良かったです。

それから、建物の入口にいつも立っている警備員さんも「こんにちは」と挨拶してくださって、そのおかげで「今日もがんばろう」と思えました。

**宮本：**受付の方はいつも感じ良く僕たちを迎えてくださってうれしかったです。警備員さんは自習室を利用している人の様子を見に来てくださることもあって、塾生の安全を考えているのが伝わってきました。

**庄司：**グノは教室がきれいですよね。そのおかげで勉強にも集中できて、快適でした。

## 後輩へのアドバイス

**宮本：**グノの先生の言うことをきちんと聞いて、音読と音声教材にはしっかり取り組んでください。

**平山：**東大は変な問題を出してこないので、基本を大事にしてください。

宮本君の言う通り、グノの先生の言うことをきちんと実行することが大事です。

**宮本 卓英**さん（理Ⅱ・開成）

どのタイミングでも、そのときにやるべきことがあるので、それを着実にこなしましょう。

**庄司：**東大の入試問題には、グノっぽいところがあります。

持っている知性が問われるというか、本質的な問題が多くて、知に対する誠意を東大は汲み取ってくれるのだと思います。

だから、グノで与えられる英語の音読や数学のセルフチェックシートに取り組むだけでなく、「先生はこの問題を出すことで何を求めているのかな？」ということを意識して勉強するといいですね。

**西：**最後まで絶対に諦めないでください。私はセンター試験も、東大入試１日目も、２日目の前半も出来があまり良くなくて、少し落ち込みました。でも、「絶対に諦めたくない」という気持ちで最後までやり切りました。

英語の読解の先生が何度も、「絶対に諦めないでね」とおっしゃっていました。そういう言葉を繰り返し聞いていたので、「少しくらい失敗しても大丈夫」と思えました。合格できたのは先生の言葉のおかげです。

# 東京大学 理系 Part 3

片山 鈴音（かたやま すずね）さん（理Ⅰ・桜蔭）
松田 竜（まつだ りょう）さん（理Ⅱ・麻布）
馬場 愛奈美（ばば まなみ）さん（理Ⅱ・桜蔭）

●PDF でもお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet23/

**グノは確かにあたりまえだとされている英語勉強法とは違います。グノで勉強しているうちに「この勉強法はいいな！」と実感し、いろいろな興味が湧いてきて、英語がどんどん好きになりました。**

**片山 鈴音**さん（理Ⅰ・桜蔭）

## 入塾のきっかけ

**片山：**もともと英語は好きな科目だったので、塾でも嫌いにならず楽しんで学びたいと思っていました。

グノに決めたのは、高１のときに受けた講習の明るい雰囲気が魅力的だったのと、授業内容も「ここなら間違いない」と実感したからです。その時期は部活が忙しかったので継続受講は見送って入塾したのは高２の夏期講習からでした。

グノの英語は本当に楽しかったので、もっと早くから通えば良かったと感じています。

**馬場：**私は片山さんより早くて、高１の春に英語と数学で入塾しました。

２つ年下の弟が中学受験グノーブルに通うことに決めたとき、母が説明会で代表の中山先生のお話を聞く機会があったんです。当時中２だった私は母からグノの良さを聞きました。中学生のうちはまだ入るつもりはありませんでしたが「入るならグノ」と思っていました。

高１の春まで塾には通っていなくて、そろそろ塾に入ろうと思ったとき、一番頭にあったグノの説明会に参加しました。一応、他塾も検討しましたが見学に行った塾の中ではグノが最も雰囲気が良かったので結局、予定通りグノにしました。

**松田：**僕も馬場さんと同じで、高１の春から英語に通い始めました。

入塾するまで、僕はグノのことをあまり知りませんでした。麻布ではそもそも塾の話をあまりしませんし、当時はグノが話題になることはほとんどなかったからです。「みんなが通っている塾の方がいいのかな？」と思うことも最初はありました。

でも、がんばる人は伸びると考えて、塾の規模や実績ではなく雰囲気で選びました。そのうち、学年が上がるにつれて、グノに通う麻布生がどんどん増えていきました。

**片山 鈴音**さん（理Ⅰ・桜蔭）

## グノーブルの授業

**片山：**他塾に通っている仲の良い子の話を聞いて、「グノとは全然違う」と思っていました。

他塾だと宿題の量も多いし、英単語の覚え方も、丸暗記をしないグノとは全然違いました。

**松田：**グノの宿題は確かに他塾に比べると少ないと思います。文化祭関係が忙しかった時期でも、宿題の重圧がなくて、学校生活と両立できました。

グノは授業で演習した内容をその直後に解説を受けて理解します。それを復習で身につける復習中心の塾なので、ひたすら宿題をやっていくスタイルとは違って、気持ちの上でも負担が少なくて助かりました。

他塾の場合、別に集中していなくても時間が過ぎていくような授業が多く、僕は緊張感のある授業をほとんど受けたことがありませんでした。

それに対して、グノの授業には程よい緊張感がありました。緊張感といっても、生徒の自主性を抑えつける厳しさは全くありません。生徒が自分の頭を使って考えていくことを促すような雰囲気でした。

先生は生徒の意見を尊重してくださいますが、授業内で添削があるし、解説のときには先生と生徒がやり取りしながら進むので、それによって緊張感が保たれています。

とても刺激的で気持ち良く集中できる授業でした。

**片山：**毎週添削をしてもらえるのはとても良かったです。添削のおかげで気が緩むことなく、モチベーションを保てました。

それから、適語補充や並べ替え、間違い探しなど、いろいろな種類の文法問題を解けるので飽きることがありませんでした。

英文法の勉強が楽しいと思えるようになったのは、私の中では大きな変化でした。文法事項の成り立ちや、現在の語法になった変遷の解説、様々な違った言い回しの共通点が浮き彫りになっていく説明など、グノは普通の受験勉強とはひと味もふた味も違っていました。

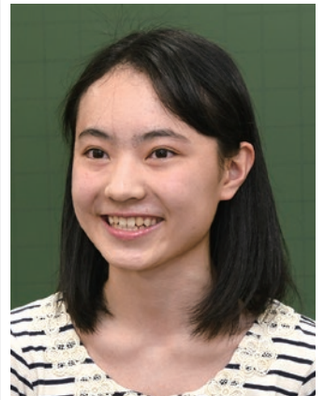
**馬場：**授業内で演習してすぐに添削してもらえるので、効率良く効果的に勉強できました。

宿題にされると他のことで忙しかったり、家だとダラダラしてしまうこともありますが、授業で集中していれば深く考えられるし、時間あたりの演習量は飛躍的に上がります。

家での復習は音読が中心でしたが、それで英語の力がどんどんつきました。

## グノーブルの音読

**馬場：**音読については、グノに入った高１のときから先生方が強調されていましたが、そのときは半信半疑でサボりがちでした。でも、学年が上がるにつれてしっかり取り組むようになりました。声を出して音読できるのは家でしたが、電車の中でもマスクをしてコソコソ呟いていました。



**馬場 愛奈美**さん（理Ⅱ・桜蔭）

グノでは、受験直前期でも過去問を解くよりも音読をするように言われます。この時期は他の教科でやりたいことがたくさんありますが、音読だけでいいのだから、これだけはしっかりやろうと思えて気持ちが楽でした。

**片山：**私は週によって音読にムラがありました。添削で点数が良くなかったり、先生から厳しい指摘をいただいた週はしっかり音読して、添削で点数が良かった週などは少ししか取り組みませんでした。

受験直前期は、理科や数学の過去問をやっていてつらくなったら、気晴らしに英語の音読をしました。特に物語文は読んでいて楽しかったので、良い息抜きになりました。

**松田：**グノの英文は本当に面白くて、行き帰りの電車の中で英文を読み込むのが毎日の習慣になるほどのめり込みました。そのおかげで、毎日英語に触れることになって、英語力がぐんと伸びました。日に日に読むスピードが速くなるというよりも、突然速く読めるようになった経験があって効果を実感していました。

**馬場：**解説を聞いて十分に理解している英文を、何度も繰り返し読み込むことには本当に効果があります。

音読するにしても、中途半端に読んでいるだけだとそれほど力はつかないと思います。内容を意識しながら、英語のまま人に読み聞かせて伝えるつもりになることが音読の秘訣です。それには、授業で先生がおっしゃっていた解説をしっかり理解している必要があります。

英文を読み込んでいると、気づいていなかった面白さがさらに見えてくることもありました。そんな経験をときどきするので、音読は楽しくてやめられませんでした。

グノの先生は、過去の授業で扱った英文と関連のある英文を改めて用意して取り上げてくださることもあります。以前読んだ英文の著者が書いた別の分野の英文や、以前読んだ英文の反対意見が書かれたものを読むこともあります。そうすると、こちらの理解度がさらに深くなって、誰かに伝えるつもりの音読が、さらにやっていて楽しいものになります。

## グノーブルの英語の特長

**松田：**他塾では、志望校別にクラスが分かれると聞いています。例えば医学部志望だと、医学系の英文ばかり読まされるみたいです。グノにはそうしたことが全くなくて、いろいろな分野からの英文を先生が教材にしてくださいます。

英文の内容解説の詳しさと楽しさも、グノは随一だと思います。僕は受験のためだけに難しい英文を読むのが性に合わなくて、それではやる気が出ませんでした。

グノでは、受験を意識しすぎることもなく、純粋に面白い英文に触れられて、やる気を持続できました。

グノの英文は本当にバラエティーに富んでいます。物語もあれば時事的な話題もあり、哲学的な難しい英文もありましたが、どれも面白いものばかりでした。

最新のニュースを翌週の授業でリアルタイムに読めることも多く、自

分が知りたいことを英文で読めるのが楽しかったです。

受験生の精神状態に役立つ英文もあって、僕は「入試本番前はこの英文を読もう」と事前にそれを選んでいて、実際にその英文が本番の緊張感をなくすのに役立ちました。

**片山：**知的な刺激を受けられるのはグノの英語の大きな特長です。

授業で扱う英文が新鮮で、時事的な話題をはじめ、いろいろな分野の英文と出会え、その解説でも面白い話がたくさん聞けるので、英語を勉強しながら英語以外のことも学べて知識の幅が広がりました。

倫理政経の話題とリンクする論説文や、生物の授業で習った単語が出てきたときは、うれしくなりました。

高３の後半からは東大の総合読解で出題されるような物語文もよく扱いました。文学的な英文は説明文と違って想像力を働かせながら読まなければなりませんが、どの文章も本当に楽しめました。決して子どもっぽいものではなく、恋愛と絡んでいるものもあって、まるで日本語の小説を読んでいるようでした。

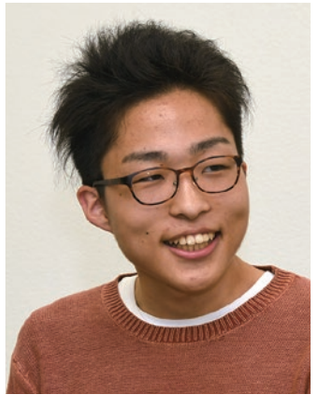
私は英語を受験勉強の教科としてガリガリやりたくありませんでした。英語が好きだったのは洋楽を聞いたりして楽しんでいたからで、そうした楽しさを壊したくなかったんです。

だから、「英語の語順通り英文を前から解釈する」とか「市販の単語帳の暗記はしない」という学び方は私にぴったりだったんです。

グノは確かに、あたりまえだとされている英語の勉強法とは違います。でも、グノで勉強しているうちに「これいいな！」と実感できるようになり、不安は全くありませんでした。

**馬場：**私も、中学時代から周りの人たちが焦って単語帳を必死に覚えているのを見て、「こういうのはしたくない」と思っていました。その流れに入りたくなかったんです。

かといって、「単語帳は要らない」と言われても初めは半信半疑でした。ただ、グノに入塾したのは高１で、すぐに学力を上げなければいけない状況ではなく「グノのやり方を信じてやってみて、成績が上がらなかったら変えよう」くらいの気持ちでした。グノのやり方を否定せずとりあえずその通りに勉強してみたら、成績も安定してとれるようになり、困ることもなかったので、そのまま信じて続けることにしました。単語帳を使わずにできるならそれが一番ですから。



**松田 竜**さん（理Ⅱ・麻布）

## 英語の力が伸びた時期

**松田：**高２の夏に受験を意識してから、一気に読むスピードが上がりました。それまで英語の伸びを感じることもなかったので、急激な変化でした。

それから、高３の夏明けに肺気胸になって家から出られない日が続きました。このとき、気晴らしにずっと洋画を見ていたんですが、そこで流れてくる英語を理解できて、「使える英語が身についた」と実感しました。

**馬場：**以前から私は英語が好きでしたが、得意だとは思っていませんでした。中学時代はどの科目が得意とか苦手とかはなく、英語も普通のレベルでした。

高１でグノに入って音読を続けていたら、ほとんどの模試で一番安定して得点できる科目が英語になっていて、英文を読む力が身についているのがわかりました。

**片山：**私も馬場さんと同じで、模試の成績を見ると、自分が思っていたよりも英語ができるようになりました。それからグノの授業で先生の質問に対して答えがわかる度合いが少しずつ上がっていきました。入塾前の私は「英語が得意」と思っていましたし、学校のテストや模試でも一番できる科目でした。それなのに、入塾直後のクラスはα３[*1]でした。このことに危機感を抱いてがんばったから、気づかないうちに英語の力が伸びていたんだと思います[*2]。

## グノーブルの数学

**馬場：**高１のときは受験を意識することもなく、抽象度が上がった高校数学の考え方を純粋に楽しんでいました。私たちが問題を解いているときには、先生がいつも一人ひとりの座席をまわってくださって、優しい言葉をかけてくださったり、アドバイスをくださったりしたので、いつも安心して数学の問題に向かえました。

高２、高３になると先生が変わり、数学に向かう姿勢も変わりました。ただ楽しく問題を解いていくのではなく、「１個１個の問題ではなくて全体を見る」という教わり方になりました。数ⅠＡⅡＢと数Ⅲではそれぞれ別の先生に習いましたが、どちらの先生も１個１個の問題を詳しく解説してくださるだけでなく、その問題のテーマをタグづけして分類し、テーマごとに気をつけるべき点を教えてくださいましたから、どんな問題もテーマと関連づけて解けるようになりました。

高３ではセルフチェックシートを書くことが求められます。前期は、予習の演習問題を解くだけでも大変なのに、さらにシートの欄を埋めなければならず、最初は「こんなことに時間を使っていていいのかな？」と思いました。でも、徐々にその効果を実感できるようになりました。

予習形式だと、まだ習っていないことだから手も足も出ないことがあります。その「わからない」をセルフチェックシートで把握することに意義がありました。

シートに書いていると、同じ「わからない」でも、本当に全くわからないのか、ここまでわかったけれどここからはわからないということなのかが自覚できます。その上で授業を受けると、授業の理解度が深まりました。「あの問題と似た問題だから、こう解けばいい」で終わってしまう復習重視の授業とは異なるアプローチでした。

後期のテスト演習でも、テスト結果についてセルフチェックシートを書きます。時間が無制限な予習とは違って、90分のテスト形式だと「ここで考えすぎたからこちらに時間が回らなかった」などという新たな課題も出てきて、それをセルフチェックシートに書きました。

１回１回を大切にできたのは、このように書く機会があったからです。後期になると数学の力だけでなく戦略も大事になってくるので、問題の復習だけでは獲得できない視点を得られたのが有益でした。

**片山 鈴音**さん（理Ⅰ・桜蔭）

## グノーブルの物理・化学

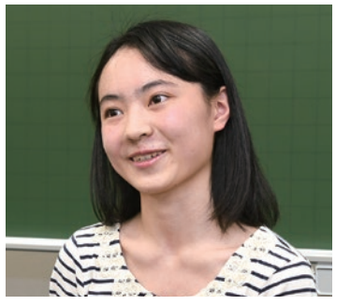
**馬場：**高２の夏から物理を受講しました。グノの物理は、公式の導出を一からすべてやります。その公式を発見した歴史上の人物を一人ずつ追いながら、成功に至る過程だけでなく、失敗も含めてたどっていくんです。この人は１回こうやってこう思ったけれど、違ったからこっちを考えてこの公式に至ったというような話が本当に楽しかったです。

ただ、公式を一から導出するのは結構大変で、さらに物理学者が考えたことを一緒に考えるのは難しいのも事実です。だから、最初は「公式をそのまま覚えた方が楽だ」と思いました。でも、高３後期に応用問題を解く段階になると、公式丸暗記だと引っかかる問題も引っかからずに解く力が身についていることを実感できました。

化学は高２で夏期講習だけ受講したあと、部活が忙しかったので先生に相談して一度お休みにしました。

高３で復帰してからは、後期のテスト演習が始まるまでの実験がとにかく楽しかったのを覚えています。私の場合、前期は数学に力を入れていて、化学の勉強をあまりしていませんでした。それでもグノで実験を生で見られたり、生で見られない実験はビデオで見せてもらえたりして、塾っぽくない授業を純粋に楽しんでいました。

化学の勉強を本格化させた後期では、前期の実験の印象が残っていたので、「この物質はあの実験で出てきたものだ」と思い出せて、暗記や理解も捗りました。



**馬場 愛奈美**さん（理Ⅱ・桜蔭）

## グノーブルの先生

**片山：**グノの先生から一番感じたのは英語に対する愛や情熱でした。先生が英語のどういうところに面白さを見いだしていらっしゃるのかが伝わってきて、「自分もこうなりたい」と毎回思いました。「自分のレベルだとこの程度にしか読めない英文でも、もっと英語ができるようになったら、先生のようにさらに面白い英文に見えてくるんじゃないか？」と思うと、英語をがんばるモチベーションになりました。

自分の趣味として、「洋書を読んだり、洋画を観たりしてみたい」とか「日本語で勉強した教科を英語で勉強したらどうなるのかな？」とか、グノで英語を勉強していると次々と興味が湧き、英語がどんどん好きになりました。

**馬場：**グノの先生は様々な個性をお持ちですが、どの先生も生徒を第一に考えてくださっているのが伝わってきました。先生というと偉そうなイメージがありますが、グノの先生には偉そうな感じがありませんでした。例えば、授業前に早く教室にいらして、生徒が入ってくると挨拶してくださいます。そして、授業が終わっても、先生が真っ先に帰るのではなく、最後まで教室にいてくだ

＊１　この学年の高２時の英語は、α（最上位）から、α１、α２、α３、α４、α５の設定。
＊２　片山さんは TLP の認定を受けました。TLP（Trilingual Program）：「グローバルリーダー育成プログラム」の一環。東大の英語入試で上位１割程度に入った学生に認められています。

さって、生徒全員に「さようなら」と挨拶してくださいます。そういうところから生徒第一の姿勢が伝わってきました。

グノの先生は腰が低く、生徒としても居心地が良かったです。

**松田：**グノの先生は優しいです。一人ひとりの成長を見てくださいますし、一人ひとりの意見も尊重してくださるので、生徒を大切にしているのがよくわかりました。一方で、勉強を教える立場としての一定の厳しさはどの先生にもありました。そのおかげで僕はだらしなくならずに勉強できました。

## グノーブルの環境

**馬場：**学校で私が所属していたリズム水泳部は発表会のある 11 月がとても忙しく、他にも応援団をやっていたので体育大会のある５月も忙しかったです。

そんな学校生活でしたが、忙しい時期でもグノの宿題に追われることはなかったので助かりました。習い事のバレエも、グノの振替制度を活用することで両立できました。

**片山：**私も通常授業に通い始めてしばらくは、塾と部活が重なっていました。

でもグノでは、夕方の５時前に始まる授業と７時過ぎから始まる授業があって、私は後コマの授業に出席していたので遅刻することもなく通えました。授業前に時間があるときは学校の宿題を終わらせることもできました。塾と部活との両立がしっかりできてありがたかったです。

それから、受付の方が親切で丁寧でした。電話の対応も話し方から丁寧さが伝わってきて、毎回「すごい」と思っていました。

それと、黒板がいつもきれいでした。授業の入れ替わりのときには、どの先生も黒板をすっかりきれいにしてから教室を離れていきます。いつも新品みたいな黒板で、私たちの学習環境に対する配慮を感じました。

**馬場：**私も片山さんと同じく受付が印象的でした。他塾に通う友達は「受付が怖い」とか「受付の人がぶっきらぼうだ」とか話していましたが、グノにはそういうことが全くありませんでした。忘れ物して「ごめんなさい」という気持ちになっているときも、受付に行くと優しく対応していただけました。振替でもとてもお世話になりました。

**松田：**僕も受付の対応には親切さを感じました。自習室を使うときもすぐに対応してくださって、生徒のことをきちんと見ていてくださるのがありがたかったです。

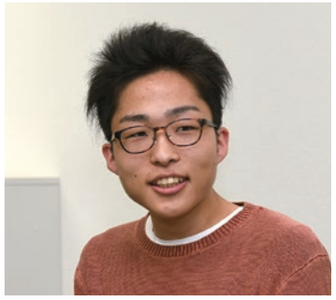
それから、グノの教室のきれいさには僕もいつも感謝していました。勉強に集中する場所としてふさわしい環境だったと思います。

## 後輩へのアドバイス

**松田：**グノの先生は、どんな質問をぶつけても真剣に返してくださいます。だから、ちょっとでも疑問に思うことがあれば、先生を質問攻めにしてください。得られるものは大きいはずです。

そして、先生の言葉に従って、グノが用意してくれた英文を読み込んでいけば、東大に受かる英語力が間違いなくつきます。グノは東大重視の塾ではありませんが、幅広く本質的な出題をする東大の英語には、グノの幅広い英語への取り組みがぴったりです。グノを信じて勉強してください。

**片山：**毎回の授業で行われる要約や英作文の添削に全力で取り組むことが大事です。私はたまにどうしても言葉が思いつかず、妥協して要約などを書くことがありました。そういうときはもやもやしたり、「もっと良く書けたのでは？」と思ったりして、先生の解説に集中できませんでした。逆に、全力でやってダメだったときは、同じ授業を聞いても、得られるものが多く、後々そういう問題ほど印象に残っていました。この経験から、毎回の授業に全力で取り組むことの大切さを強調したいと思います。



**松田 竜**さん（理Ⅱ・麻布）

**馬場：**私は東大入試の全科目をグノで完結させました。

確かにグノの教え方や推奨する勉強法は学校や他塾と違って特殊なところがあります。でも、単語帳の暗記をしない、セルフチェックシートをつける、物理の公式を導出する、化学の実験をするなど、どれをとっても生徒が主体的になって本当の実力がつくようにと考え抜かれているからだと思います。

「グノでがんばる」と決めたからには他のことには手を出さず、グノの先生がおっしゃるやり方を忠実に守れば、それが合格への近道だと思います。実際、私はグノ一本で最後まで勉強して、とてもいい受験生活が送れたと感謝しています。



# 13期生 合格者インタビュー

# 国公立・私立大学 医学部

【座談会出席者】（五十音順、本文中敬称略）

Part 1

あみや ふみと
**網谷 史人**さん
（北海道大・開成）

おかもと まさひろ
**岡本 昌大**さん
（千葉大・攻玉社）

くろだ なほ
**黒田 南帆**さん
（筑波大［公募制推薦］・都立小石川中等教育）

ふじた ゆうすけ
**藤田 悠佑**さん
（富山大・サレジオ学院）

ふじた りさこ
**藤田 理彩子**さん
（東北大[AO 入試Ⅱ期]・立教女学院）

みやざき そう
**宮﨑 壮**さん
（千葉大・開成）

わたなべ あいこ
**渡辺 藍子**さん
（東北大・白百合学園）

Part 2

おんだ けんご
**恩田 健吾**さん
（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

かまた ふみかず
**蒲田 文和**さん
（東大理Ⅲ・開成）

きたわき ゆうと
**北脇 優斗**さん
（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

こんの りょうや
**今野 諒也**さん
（筑波大［公募制推薦］・海城）

しょうじ まこと
**東海林 睦**さん
（横浜市立大・淑徳）

なかがわ ゆきふみ
**中川 就迪**さん
（慶應義塾大・開成）

まきやま ゆうか
**牧山 優香**さん
（信州大・早稲田実業）

# 国立大学 医学部 Part 1

網谷 史人さん（北海道大・開成）　岡本 昌大さん（千葉大・攻玉社）
黒田 南帆さん（筑波大[公募制推薦]・都立小石川中等教育）　藤田 悠佑さん（富山大・サレジオ学院）
藤田 理彩子さん（東北大[AO入試Ⅱ期]・立教女学院）　宮﨑 壮さん（千葉大・開成）
渡辺 藍子さん（東北大・白百合学園）

●PDFフルバージョンでは、「医学部志望の動機」、「英語の力が伸びた時期」、「医学部の面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet23/

**スタートダッシュ講座から数学と英語で入りました。元気で刺激的な先生が多いので、授業を飽きずに聞いていられます。個人的な質問や相談に対しては、先生が性格まで理解した上でアドバイスをくださいます。一人ひとりを見てくださるのはグノだけです。**

渡辺 藍子さん（東北大・白百合学園）

## 入塾のきっかけ

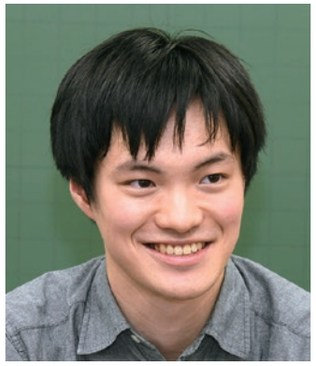
**黒田：**スタートダッシュ講座*から続けています。小６の３月に親がグノに決めました。英語が有名なので英語だけ入る予定でしたが、説明会での数学の先生のお話がとても面白くて、「数学も！」と思いました。

英語と数学はスタートダッシュ講座からずっと続けていて、途中で他の科目も追加受講しました。

グノにない科目を大手予備校で受けたことがありましたが、「黒板が遠い授業を受け続ける必要はない」と感じました。生徒を見下ろすような先生の態度にも反感を持ってしまって、授業に集中できなかったのもあります。

グノの授業は少人数制です。先生と生徒のやり取りで授業は進むし、添削もしてもらえて、勉強に集中できる環境です。それに、先生は生徒と同じ目線でいてくださって、親しみやすかったです。

**渡辺：**私も黒田さんと同じでスタートダッシュ講座で数学と英語を受講しました。グノに通っていた中学の先輩から教えてもらったことを踏まえて、母が持ってきた資料の中から選びました。



網谷 史人さん（北海道大・開成）

もともと「数学を補強したい」と思っていて、通常授業は数学だけとりました。英語と古文の受講をスタートしたのは高１からです。中１から通っていてグノがとても好きだったので、他塾と比べることはしませんでした。

**藤田（理）：**姉の勧めで私は中１からグノの季節講習を受けていました。「自分に合っている」と思って、中２から英語の通常授業、続いて数学も受けることにしました。

英語に関しては、勉強好きではない姉が「楽しい」と言っていたので、「この塾で間違いない」と思いました。

数学は他塾の授業も受けてみましたが、受け終わったあとに何も残っていなくて「合っていない」と感じ、グノに統一しました。グノは不明点があるときの個別対応がとても良かったです。

**岡本：**僕の場合、勧めてくれたのは兄でした。兄は４歳上でしたが、グノに通って英語の力が伸びていたので、塾選びに迷いはありませんでした。

学校の授業に慣れてきた中１の夏から英語で入りました。

**宮﨑：**僕は中３の夏期講習から英語を受講し始めました。学校の英語をあまりにもサボっていたら何もできなくなって、母からグノを勧められました。

ついでに数学も受講してみたら、授業がとても楽しくて、そのまま続けました。高２からは物理もとりました。

グノに入ったあとは、「グノしかない」と気に入って通うことができました。特に大量の宿題をつらそうにやっている人たちを見て、そういう塾でなくて良かったと思っていました。

**藤田（悠）：**僕の場合はグノに通っていた姉から勧められて、高１のときに季節講習を受け、グノの方針が自分に合っていることを確認した上で、高２の春から英数で入塾しました。

**網谷：**高３のときに友人の紹介で入りました。６月まで国語の受験勉強を何もせずにいて、「ヤバイ」と思って、「駆け込み古文・漢文」という短期の基礎講座を受けました。それで実際に力が伸びたので、秋から東大国語のお世話になりました。結局、現役のときには合格できませんでしたが、グノの環境が気に入ったので、浪人してからもグノに通い続けることにしました。

グノには学校の友人が何人も通っていて受験の成果を上げていましたし、「英語はα５（基礎クラス）でも楽しい」と評判も良かったので英語、数学もグノに通うことにしました。

岡本 昌大さん（千葉大・攻玉社）

## グノーブルの英語

**渡辺：**高１で入塾したときのクラスはα３*でしたが、その頃は、前回の復習をしていれば授業中の先生の質問にも答えられましたし、クラスも少しずつ上がっていきました。ところが高２の冬から要約演習が入ってくると、上位のクラスにいる周りの人との差がはっきりわかって泣けてくることもありました。

要約は英文が読めているだけではまとめられません。背景的な知識が欠けていたり、英語の論理展開の仕方がわかっていなかったりすると、がんばって答案を書いてもほとんど点数にならないのです。

でも、その悔しさをばねに、毎回解説をしっかり理解した上での復習をして、次の演習にまた全力を注いでいました。それでも点数が上がらないという週がしばらく続きました。

点数にならないことは苦しいのですが、グノの授業は興味深い英文をたくさん読めるし、先生には熱意があって解説も面白いので通うこと自体はずっと楽しかったです。それに、問題は厳しくても先生は優しくて、「解説が理解できるなら、いつかそのレベルまでは必ず登れる」という先生の言葉を励みに努力を続けていました。

**宮﨑：**僕は英語が苦手で、授業中にあてられても答えられないことが多かったんですが、グノの授業は基本的に楽しく受けていました。

先生がどんどん生徒を授業に巻き込んでくれるし、難しい問題にもたまに答えられるとうれしいので、もっと授業を楽しみたくて念入りに復習をしました。徐々に英語力も上がってきて、最後の方は質問にも普通に答えられるようになりました。

**黒田：**先生方は私たちをあてることで、どんどん授業に参加させてくださるので、グノの授業はとても集中できるし、質問に答えられるとうれしくなります。添削してもらって点数が高かったり、いいコメントをいただけたりするときの喜びもありました。

中学の頃は、受験はまだまだ先でしたが、授業の雰囲気が好きで、それが「英語を勉強しよう」という活力になっていました。

高校生になってから一度、α３くらいまでクラスが落ちたことがありました。スタートダッシュ講座から通っていた友達はαやα１にいて、「みんなできているのに」とショックでした。

黒田 南帆さん（筑波大[公募制推薦]・都立小石川中等教育）

でも、グノの場合クラスが落ちても、先生が違うだけでとても良い授業だし、先生が親身になってくださるのは同じなのでがんばれて、上のクラスに戻ることができました。

**岡本：**グノには授業の開始前からだらけた雰囲気がありません。それに、いったん授業が始まるとさっと引き締まります。授業の最初に演習をして、その答案は授業時間内に添削してもらえるし、すぐに解説もしてもらえます。記憶が新鮮なので解説を聞くときにも集中できました。解説は先生と生徒のやり取りで進んでいきますから集中はとぎれません。

グノの授業が楽しいというのは、参加しているという意識が持てて、ずっと集中できるからです。

**藤田（悠）：**グノでは周りの雰囲気で、こっちの気も引き締まりました。

僕の場合、英語が比較的得意で数学が苦手だったため、英語の勉強時間を数学にまわすこともありました。それでも、周りの様子がよくわかるので、授業中は常に真剣になれました。演習しているときに、自分はまだ解き終わっていないけど周りの人たちは終わっているらしいとか、周りの人が先生の問いかけにどんどん答えていくとか、いい刺激がいつもありました。

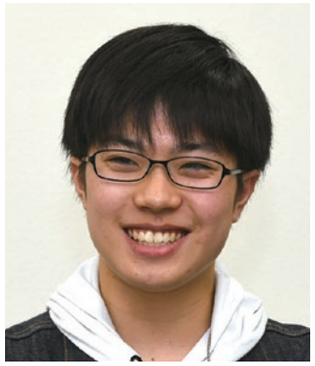
**網谷：**復習に集中できる点もグノの特徴です。

グノでは毎回の教材はその日に配



＊新中１生対象の講座（２～３月に開講）。

＊この学年の高１時の英語は、α（最上位）から、α１、α２、α３、α４の設定。その後の学年でα５も追加設定されました。



**藤田 悠佑**さん（富山大・サレジオ学院）

られ、それを授業内で演習して解説を聞きます。持って帰った教材は、復習して１週間で自分のものにすることに集中できます。

予備校の英語は文法理解に寄りすぎていて、長文を１週間にひとつだけというのがほとんどです。レベルが高くて面白い英文を毎週一定量提供してくれるのはグノくらいです。グノでは解説が英文の背景にまで及びます。英文の内容にこれだけ焦点を当てるのもグノの特徴です。本当に楽しめる授業でした。

あと、グノの先生の板書が好きでした。写すのに時間がかかる丁寧すぎる板書ではなく、簡潔だけれどわかりやすい板書だったと思います。

## グノーブルの音読

**藤田（理）：**授業で扱う英文は毎回いろいろあって、内容が面白くていつも楽しみでした。ジャンルも、つい最近の出来事から文学的なもの、科学的なものなど様々でした。

ただ、要約演習で扱われる英文には難しいものが多くて毎回苦労していました。私は「英語ができる」と思っていましたが、深い内容の英文を正確に読むという点には大きな課題があるんだとわかって落ち込んだ時期もあります。先生に「音読を続けていれば伸びる」と何度もおっしゃっていただいて、その言葉を信じてがんばりました。

**宮﨑：**他塾の人たちに「音読している？」と聞くと、「何言っているの？」という顔をされます。音読はグノの特徴です。そして、グノの音読を続けると着実に英語の力を伸ばせます。入試本番でもかなりのスピードで速読できて、音読の効果を実感していました。

**藤田（悠）：**僕は高３の夏から毎日欠かさず音読をしました。音読をしていると、「英語を英語のまま読む」ことができるようになって、読むスピードと精読力が上がっていきました。英文を速く読めれば、問題を解くことに時間を当てられて、結果的に試験の点数もアップします。

**岡本：**僕も高３になってから、毎日欠かさず音読していました。英文を書いた本人の気持ちになって音読し、英文全体の主張や、その主張をするためにどんな組み立てをして、どんな具体例を挙げているかなどを意識するようにしていました。

自分が成長できているかどうかは、毎週の要約演習で確認できるのが良かったです。

**藤田（理）：**私も以前から音読していましたが、パーッと読んでいるだけでした。でも、言葉の使い方や内容の組み立てなどを意識しながら音読しないと効果が薄いんです。

このことに気づいて音読の方法を改めたら、確かに読むスピードが速くなるだけではなくて、正確な読み方もできるようになりました。黙読だと読み飛ばしてしまうことでも、声を出す音読では、複数形のｓとか前置詞などの細かなことまで意識できるし、抑揚や強弱などを変えられるので深い読み方もできるようになります。

**渡辺：**音読は続けているとやった分だけ効果が出て、サボってしまうとサボった分だけ英語力が下がって読めなくなります。よく先生が「語学はスポーツや楽器の練習に似ている」とおっしゃっていましたが、サボれば下がるし、やれば上がるという面でも似ています。

音読するとき、授業の解説を思い出しながらやっていると、それが効率的な復習になりますが、さらに、GSL＊はネイティブが読み上げているので、その抑揚や強弱も参考にできます。「こういうときにここを強調する」というのがわかって、英語で伝えるコツにも気づきます。

**黒田：**私は音読をずっとやっていませんでした。高３でα１に戻ったとき、要約の添削でクラスでビリくらいの点数を叩き出し続けて、「さすがにまずい」と思って音読に初めて取り組みました。

音読をしたからといってすぐに成績が上がるものではなく、９～10月の受験ギリギリになって、要約や模試の点数も上がっていきました。読むのも速くなって、「もっと早くから音読をやっておけば良かった」と後悔しました。

**藤田 理彩子**さん（東北大[AO入試Ⅱ期]・立教女学院）

**網谷：**僕の場合、音読を始めて３か月くらいで、グッと読みのスピードが上がる瞬間がありました。音読の効果を最初は信じていませんでしたが、実際にスピードが一段速くなって驚きました。

それに、音読をしていると気づけることがたくさんあります。例えば知っている単語でも「こういう使い方をするんだ」と、その言葉の生きた意味を吸収できます。

**宮﨑 壮**さん（千葉大・開成）

## 英単語の覚え方

**藤田（悠）：**音読をしていれば単語も覚えられます。しかも、英文の中で自然に使われている単語に触れているので生きた使い方が身につきます。

音読では同じ英文を繰り返し読むので、いくつもの英文が自然に頭に入ってしまいます。記憶した言い回しは英作文でも応用できるようになります。

受験が終わってから市販の単語帳を見てみたら、わかっている単語ばかりでした。単語帳を使わないで受験を突破できたのはありがたかったです。

**岡本：**同感です。音読中に文章内の単語を覚えてしまうので、単語帳なしでも英語ができるようになります。

授業では語源から単語の説明を受けているので、その単語の派生的な意味や関連語も覚えやすいし、音読していると授業中のそういう解説も頭をよぎって、いい復習になりました。

**網谷：**グノに入る前は単語帳を使っていましたが、何しろ１周するだけでものすごく時間がかかります。それなのに２周目に入ると、忘れている単語の多さに愕然とします。単語帳の暗記はやっていてもつまらない上に、効率の悪い覚え方です。

グノに入ってからは単語帳を使わなくなりました。授業での語根を使った単語の解説は驚きでした。ひとつの語根から仲間の単語がどんどん黒板上で展開されていく様子は手品のように面白かったです。興味が持てるものは印象にも残りやすく、毎晩寝る前に授業の英文を音読しているうちに単語も無理なく覚えられるようになりました。

**宮﨑：**僕も以前は単語帳をやっていましたが、単語帳に書かれている日本語の意味が実際の英文の中ではうまく当てはまらないことが多く、結局、辞書で改めて確認しなければなりませんでした。語源の知識が増えてくれば文脈の中で推測できるようになるし、音読した英文との関連があると意味を思い出しやすくもなります。

**藤田（理）：**単語帳に載っている意味は限られています。実際の長文では、単語帳に書かれている意味と全然違うことがよくあって、途中で「役に立たない」と思い単語帳をやめました。

学校では強制的に単語帳を暗記させられていましたが、それでスラスラ英文が読めるようになったとはとても言えません。結局は、グノのやり方で、つまり単語帳を使わずに受験を終えたに等しいです。

**渡辺：**私の学校では単語帳が配られて、毎週テストがありました。でも私はその単語帳はほとんど使わず、グノで教わった語源を中心に、自分で小さなノートに出てきた単語をまとめていきました。「これは前にもやったよね」と先生に言われたときにさっと見返しやすいようにしていて、それがとても役立ちました。

**黒田：**私の学校も単語帳のテストが毎週あって、一応単語帳をやりましたが、テストの直前に頭に叩き込んだだけです。結局、グノで作った語源ノートで覚えた単語がほとんどでした。

グノの授業では、前の週に出た単語が次の週にもまた出るので、２～３週間同じ単語を見続けることになります。それで確実に定着しました。

## グノーブルの数学

**渡辺：**グノの数学には中１から通っていて、高１の頃には数学がとても好きになっていました。

私は小学校から付属の一貫校に通っていて中学受験をしていません。ですから、αに上がったときに中学受験組の強さに圧倒され、「あの人たちに負けている」と思いました。でも、グノの授業は本当に楽しくて、劣等感よりも「がんばりたい」という前向きな気持ちで続けられました。

高２から担当していただいた先生の授業を初めて受けたとき、「大学受験までこの先生についていきたい」と思い、数学にさらに一生懸命になれました。その先生には、メンタル面でも支えていただいたことがたくさんありました。

グノの数学はずっと楽しくて、おかげで学校でも好成績を維持できました。数学は受験科目の中で一番安定していて、安心材料になりました。

**黒田：**私も高１まで渡辺さんと同じクラスで楽しい数学を受けていました。クラスのメンバーは毎回同じな

**渡辺 藍子**さん（東北大・白百合学園）

＊GSL（Gnoble Sound Laboratory）：中１から高３までの６学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。

ので、その中で切磋琢磨する雰囲気がありました。私が一番で解き終わったらうれしいし、他の人たちが私より先に解き終わったら悔しいという感じで、「勉強しよう」というモチベーションになりました。

高２以降の先生には問題をたくさんいただけたので、他塾の人たちがやっていたような問題集を一冊もやらずにすみました。先生がくださった授業プリントを復習して、さらにプラスアルファでいただけるプリントにも取り組んでいました。

グノの数学の特徴といえばセルフチェックシートです。セルフチェックシートでは、自分と向き合うことになるので、自分の傾向をつかめるという効果もある一方で、分野によっては、いかに自分がダメなのかをつきつけられることにもなります。

疲れたときや他科目の勉強ばかりしていて数学がおろそかになりがちなときに、セルフチェックシートを見て、「きちんとやらないといけない」と自分を奮い立たせていました。

**宮崎：**確かにセルフチェックシートでは、自分がどんな分野のどういう計算でミスをするのかがわかります。先生も僕たちが書いた内容に目を通して「この問題に対しては、基本的にこれをやろう」といったコメントをつけて返してくださいます。こうした個人的なやり取りができると、「それは絶対にやろう」という気持ちになりました。

先生との距離が特別に近いのはグノの数学の特徴でもあります。クラスによっては人数が英語より随分と少なく、授業中でも先生と仲良く話せました。解説中にも「ここはどうしてそうなるんですか？」と質問できて、その場でいろいろ吸収できました。数学はそれなりに得意でしたが、グノでさらに力を伸ばせました。

**網谷 史人**さん（北海道大・開成）

**藤田（理）：**セルフチェックシートでは自分ができないところを細かく分析していくことになって、その効果の大きさを実感しました。問題の解き方やミスしたところなどを実際にセルフチェックシートに書いて残すと、その問題に対する印象が強くなって思い出しやすくなります。模試や入試のときも、「こういう問題をやったな」と思い出され、頭の中にストックした記憶が役立ちました。

私は、学校では「数学がそれなりに得意だ」と思っていましたが、グノだとできなくて、クラス落ちも経験して落ち込みました。でも、先生が親身になって授業や進路の相談に乗ってくださって、それに救われました。

**藤田（悠）：**僕は、「全くダメ」という表現がぴったりなくらい数学が苦手でした。でも、グノの授業が楽しかったので、苦手なときにも数学を好きでいられました。

グノの授業が楽しいのは、授業をしている先生が一番授業を楽しんでいらっしゃって、その楽しさが伝わってくるからだと思います。どんなに疲れている日でも一秒も眠くなりませんでした。

グノに入る前は、問題の解説は理解できても、そもそも問題に対する方針の立て方がわからず、どうやったら数学ができるようになるのかをずっと悩んでいました。

グノの解説では、「どうしてその解法を選ぶのか？」に重点が置かれます。道具を自覚的に選んで使うことができるように導いてもらえるのです。グノで解法を学んだら、初見の問題でも「自分にもできる」と

**岡本 昌大**さん（千葉大・攻玉社）

徐々に思えるようになりました。

それから、改善点を具体的に捉えられるセルフチェックシートは有意義でした。僕は計算ミスがものすごく多いんですが、「計算ミスが多い」という大まかな捉え方だと、ひたすら計算演習するくらいしか解決策がありませんし、あまり改善につながりません。

でも、セルフチェックシートに細かくびっしり書いていたら、ミスをしやすいときと多少複雑でもミスをしない場合があることが判明しました。具体的な傾向がはっきりすれば、実際そういう場面に出くわしたときに、「いつもミスっている問題だ」と意識してミスを減らせます。

**網谷：**僕は浪人時に後期のテスト演習だけ受けました。解法や公式を覚えるだけなら自分でもできますが、自分の答案の良し悪しをプロの方に見てもらいたかったのが受講理由です。

グノのセルフチェックシートは良かったですね。テスト演習が始まる時期は秋で、本番まで時間が限られています。新たに問題集をやるよりも、目の前の一問からどれだけ学べるかが大事な時期なので、そういう意味でセルフチェックシートが有意義でした。

「シートに何を書こうかな？」と意識しながら解説を聞くようになったので、解説を聞いている最中にも自分の中でいろいろなことが整理されました。僕は過去問や模試の復習をするときもセルフチェックシートを書いていて、応用の利く勉強法でした。

## グノーブルの物理・化学

**黒田：**物理は少人数クラスで、先生とも距離が近いので、「問題を一緒に解こう」という雰囲気でした。学校では公式を覚えて問題を解くだけですが、グノは現象を発見した人の視点から公式を見るとか、自分で公式を導き出して自分のものにするとか、学校とは違った角度から物理を考える形式で、楽しく勉強できました。受験勉強をしているというよりも、物理の歴史を学んでいるという感覚でした。

化学は、実験が受験勉強の息抜きになって、勉強しているけれども楽しい時間になりました。実験は机上で学ぶよりも実際に見る方が記憶に残りやすいので、勉強効率が良かったです。生で見た実験器具を知らない間に覚えていることも多かったです。学校では高３になると実験をやらなくなりましたが、グノでは直前まで実験をやっていました。後半は１か月に１回くらい、問題演習の合間に小さめな実験を見せていただきました。

**宮崎：**化学は、演習の合間に見せてもらった実験動画もすごく面白かったです。

物理は黒田さんと同じクラスでしたが、先生がとてもフレンドリーでした。僕は周りの存在を忘れるくらい夢中になっていましたが、先生も一緒になって楽しんでくれたので、授業に行くのが毎回楽しみでした。

グノの物理は特殊で、高度な概念を扱うことも結構ありました。でも、それをしっかり復習して、他塾に通う人たちに「この内容を知ってる？」とどや顔で説明することもモチベーションになっていました。おかげで、物理の成績はかなり伸びました。

**黒田 南帆**さん（筑波大[公募制推薦]・都立小石川中等教育）

## グノーブルの国語

**渡辺：**高１のときに古文の通常授業を受けました。もともと国語は苦手でしたが、グノの古文は１年だけ受講すれば受験まで勉強の必要がないという方針でしたから、他科目で忙しくなる前にとりました。

パワフルな先生と、優しくていつもニコニコしていらっしゃる先生に習いましたが、英単語と同じで、古文単語も言葉の成り立ちや本来の動作などと関連づけて教えていただいて、とても覚えやすかったです。先生がおふたりとも熱心で「この先生のためにもがんばろう」と思えたこともあって、苦手だった国語も、センター試験本番では９割を超えました。

**黒田：**高２で古文、高３の季節講習ではセンター国語を２回受けました。古文は苦手ではありませんでしたが、周りの子たちが申し込むのにつられてとったら、授業がとても楽しかったんです。

昔のことを「これは浮気しているわ」などと現代風に先生が表現してくださる生き生きとした授業で、古文がさらに得意になりました。

高３になってから先生に志望動機も見ていただきました。そのときには授業を受けていたわけでもないのに、快く引き受けてくださって本当に助かりました。

センター国語も面白かったです。漢文は自分では全然勉強していませんでしたが、「これだけ押さえておけば、センターは大丈夫」というのを示していただいて、それが本番の武器になりました。

**網谷：**高３で古文と漢文、東大国語を受けました。

**藤田 悠佑**さん（富山大・サレジオ学院）

「駆け込み古文・漢文」では、先生の「君たち本当にヤバイ！」から授業が始まりました。そんなヤバイ僕でしたが（笑）、短期間の授業でかなり伸びました。

「ヤバイ」から始まったので、最初は担当の先生を厳しい先生かと思いましたが、実はとても親身な方でした。古文の助動詞を全くわかっていなかった僕を、毎回の授業後に１時間くらい指導してくださって、本当に救われました。日本の古い言葉に造詣が深い先生で教養も深まりました。

東大国語の先生はパワフルで、授業に出席していると、国語力だけでなく、エネルギーまで充電できて、「来週まで勉強がんばるぞ！」と思えました。演習時間があって解説もがっつりという充実した２時間でした。

何よりも僕らが試験会場で書けそうな答案を板書で提示してくださるのが良かったです。予備校の答案は「こんな言葉はとても使いこなせない」という高尚なものが多いですが、グノでは「こういう点のとり方もある」とおっしゃって、受験生が書けそうないろいろなバリエーションの解答を示してくださいました。

添削も丁寧で、直前の過去問添削も熱心にしてくださいました。現役のときに国語だけは本当に実力を伸ばせました。

## グノーブルの先生

**黒田：**グノの先生は親身になってくださるので、相談や質問も気軽にで

**藤田 理彩子**さん（東北大[AO入試Ⅱ期]・立教女学院）

きました。要望にもいつもすぐに対応していただけました。

授業では、科目の内容だけでなく、例えば扱った英文の背景とか、先生の教養がにじみ出てくる話だったり、先生がその科目のことを大好きなのが伝わってくるような話もしてくださいます。ずっと張り詰めた雰囲気ではなく、息抜きみたいに聞ける話がところどころに入るおかげで、授業にも集中できました。

**渡辺：**元気で刺激的な先生が多いので、授業を飽きずに聞いていられます。

個人的な質問や相談に対しては、先生が一人ひとりの性格まで理解した上でアドバイスをくださいます。どの先生もきちんと生徒一人ひとりを見てくださるのはグノだけです。

**藤田（理）：**グノの先生は本当に親身になってくださるし、生徒一人ひとりの顔と名前が一致していて、それぞれにどういうところが得意で、どんな弱点があるのかまで把握していらっしゃいます。

AO入試で宮城に行ったときは授業に出席できず、振替もできなかったのですが、数学の先生が個別に対応してくださいました。うれしかったしありがたかったです。

**宮﨑：**グノの先生はみんな優しいですね。先生が生徒一人ひとりの答案を添削して、いろいろアドバイスをしてくださるので、「よく見ているな」と思っていました。

それから、授業後のどうでもいい話にまで先生たちはつき合ってくださいました。こういう時間がとても楽しく、受験でピリピリした中でも、会話が弾んで本当に元気が出ました。

**藤田（悠）：**英語のように比較的人数が多めのクラスでも、先生は一人ひとりをよく見てくださっています。解説の最中も僕たちの表情を見ながら話してくださって、納得できていないときはすぐに気づいてくださり、詳しく説明し直してもらえました。

つまり、それは、わかっていないときにもすぐにバレるということですが（笑）。

**岡本：**初回の授業で顔と名前を覚えてくださるのにはびっくりします。

毎回の添削や授業中のやり取りのことも先生はちゃんと覚えていて、あとになってから「あの頃はまだあんな答案だったけど、今はここまで書けるようになったね」といったお褒めの言葉をいただけたこともあります。本当によく見てくださいます。

中学のときにお世話になった先生と高校になってからお会いしても、先生の方から声をかけてくださいました。

**網谷：**先生方は1回目の授業で顔と名前だけでなく、志望校まで覚えてくださいます。化学のテスト演習を受けたとき、僕は先生と全然話したことがありませんでしたが、それでも、授業の最終日に相談にいったら、僕の志望校もご存じでしたし、僕が苦手としている分野も把握されていて的確なアドバイスをいただけました。「一人ひとりを見る力がすごいな」と感動しました。

僕は学校でも予備校でも質問するのがとても苦手でした。わざわざ人を呼び止めて聞くのに躊躇してしまうからです。でも、グノ生の皆さんは積極的に質問しているし、先生方も楽しそうに質問を受け付けてくださいます。居残っての質問対応も気になさっていないところなんて、他塾ではありえないことですし、ありがたかったです。

## 後輩へのアドバイス

**網谷：**グノで受講している科目については、グノのやり方を信じてついていけば大丈夫です。

医学部は高得点勝負です。他学部だと数学や物理などの一部の科目ができれば受かることもありますが、医学部は苦手科目を他の科目で取り返すのが難しいです。早くから苦手科目と上手くおつき合いするのが大切です。

それから、センター試験はけっして舐めてかかってはいけません。センターはなるべく高得点を狙いましょう。

**黒田：**グノの先生に言われたことをきちんとやれば、自然と成績が伸びるし、合格もできます。自分なりの工夫も大事ですが、まずは言われた通りにやることが大切です。

勉強や進路に悩んだり、精神的に疲れたりしたときは、先生に相談してください。授業に関係ないことでも先生は親身に相談に乗ってくださいます。

**渡辺：**黒田さんに同感です。疑問に思ったり、精神的に苦しいと思ったりしたら、すぐにグノの先生に相談してください。グノの先生は私たちの性格も弱点も理解してくださっているので、質問することで、授業では得られないことが得られるはずです。

授業中は、ただ授業を聞くだけでなく、積極的に参加して、「すべて吸収しよう」という姿勢で取り組むことが大切です。

**宮﨑 壮**さん（千葉大・開成）

**藤田（理）：**先生のおっしゃることをきちんと実践していれば結果はついてきます。音読をきちんとするとか、セルフチェックシートを書くとか、そういうのを確実に行いましょう。

付属校の人の場合、受験がしんどくて諦めたくなることもあるでしょうが、グノの先生に相談して助けていただきながら、努力し続けることが大切です。

**渡辺 藍子**さん（東北大・白百合学園）

**岡本：**グノの先生に聞きにいけば、先生はちゃんと目の前の生徒に向かって、話す内容も話し方も工夫して伝えようとしてくださいます。復習の方法ひとつでも1対1で直接話してもらえるとやり方がより明確にわかります。それを忠実に守って勉強していくことで合格を勝ちとれます。

**藤田（悠）：**グノの授業を信じれば国公立医学部に合格できます。僕は、英語のクラスがEGGS*1からでしたが、楽しくて役に立つ授業でした。

授業内容もクラスで大きく変わるものではありません。自分のクラスレベルを気にせず、「しっかり復習していれば力がつく」と信じて勉強してください。

**宮﨑：**僕は最後まで英語のクラスはα2でしたが、先生は生徒の志望校を踏まえた上でレベルに合った授業をしてくださいますので、どのクラスでも諦めずに勉強してください。

数学も、先生に言われた通りにしっかりやっていれば大丈夫です。グノの先生を信頼していれば絶対に合格できると思います。

# 国公立・慶應大学 医学部 Part 2

恩田 健吾さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）
北脇 優斗さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）
東海林 睦さん（横浜市立大・淑徳）
牧山 優香さん（信州大・早稲田実業）
蒲田 文和さん（東大理Ⅲ・開成）
今野 諒也さん（筑波大[公募制推薦]・海城）
中川 就迪さん（慶應義塾大・開成）

●PDFフルバージョンでは、「医学部志望の動機」、「医学部の面接」もお読みいただけます。
www.gnoble.com/gnolet23/

**グノの数学を楽しみに通っていました。授業ではそのときのコンディションやひらめきに頼るのではなく、具体的な方法論を示してくださいました。センスに頼ると限界になる部分を戦略的に考えられるようになりました。**

**蒲田 文和**さん（東大理Ⅲ・開成）

## 入塾のきっかけ

**北脇：**英語と数学は中1になる前のスタートダッシュ講座*2から続けています。

僕の学校では、土曜日は数学や国語などの勉学系の授業をやらず、課題研究などの行事に近いことをやっていて、他の学校に比べて授業のコマ数が少ないんです。それで「塾でも勉強した方がいいんじゃないか？」という判断がありました。母が塾探しをして、勉強を楽しめそうで、宿題が少なめのグノが候補に上がりました。

**今野：**僕もスタートダッシュ講座からグノに通っています。スタートダッシュ講座を受けて、教え方がすっかり気に入って、「この塾がいい！」と思い、そのまま英語・数学を続けました。

**牧山：**私はふたりより遅くて、中2のとき英語に入塾しました。中1までは別の塾に通っていましたが、何を暗記させられているのかもよくわからないまま覚える勉強がつまらなくて、私が「塾を辞めたい」と言っ

＊1　EGGS（English Grammar Green Session for newcomers）：英語が苦手になってしまった一般生のための、通常クラスに入る前に英文法の基礎を補完する講座。
＊2　新中1対象の講座（2～3月に開講）。

たら、親が「グノに変えてみれば？」と勧めてくれました。

授業を受けてみたら、英単語を語源から覚える方法や、面白い英文を読めること、宿題が少ないところなどが気に入って、「これなら授業を楽しめる」と思ったのが決め手になりました。

**中川：**僕は高１になるタイミングでの入塾です。中学では、みんなと一緒に他塾に入っていましたが、その頃は惰性で英語を勉強していました。改めて「英語をきちんと勉強したい」と思い、友人から「グノが良い」と聞いていたこともあってグノに決めました。

グノは、受験勉強として英語とつき合うというよりも、英語と仲良くなれる塾で、「ここで勉強してみたい」と強く思いました。英語に対する苦手意識をなくしてくれた塾です。

**恩田：**僕は高１の終わりに英語で入塾しましたが、きっかけは母や友達からの話です。

姉の高校で「グノは英語が伸びる」と評判だったのを母は聞いていました。それと、僕の学校でグノに通っている人が、みんな楽しそうに勉強しているのも見ていました。実際に授業を受けたら、本当に楽しくて高３までずっと続けました。

高２で古文もとりました。古文は周りの影響が大きかったです。高１で古文をとっている友達がいて、先輩方もたくさん受講していて、評判が良かったんです。当時古文がさっぱりだったので、「何もやっていない人でも読めるようになるよ」「文法から教えてくれるよ」といった話に心惹かれました。

**恩田 健吾**さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

**蒲田：**僕も同時期にグノに入塾しました。友人から「そろそろ塾に入らない？」という誘いがあって、主体的というよりも友人につられて高１の冬期講習に参加しました。

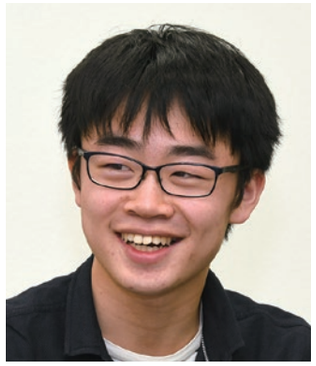
グノは生徒と先生の距離の近さが魅力でした。僕は「ザ・予備校」みたいな雰囲気が嫌で、中学受験みたいに楽しい雰囲気で勉強したかったんです。それまでは、学校行事がとても好きで楽しんでいたので、塾に行くよりも学校行事に参加したくて、塾に全く通っていませんでした。

**東海林：**高２の３月ギリギリまで部活があって、終わるのを見越して２月ぐらいから「そろそろ塾を考えないといけない」と思っていました。このとき、友人に「グノがとにかくすごい！ お前、英語好きだろ？」と言われ、実際にグノの春期講習を受けてみて入塾を決めました。

当時「単語帳をやらないといけない」と思っていたのに、「単語帳を覚えない」というグノの方針に驚きました。音読もそれまでしていませんでしたが、音読すると楽しくて、英語のリズムから単語の知識、英文らしい文の組み立てなど、あらゆることが入ってくるのを実感して、こちらも驚きでした。授業も楽しくて「ここしかない」という気持ちになりました。

## グノーブルの英語

**牧山：**英単語の意味をたくさん暗記しているのに長文読解に苦手意識を持っている人が周りにいましたが、グノだと中学の頃から長い英文に親しめました。



**蒲田 文和**さん（東大理Ⅲ・開成）

グノの取り組み方は普通とは逆というか、単語を覚えて文章を読むというよりも、文章を読みながら、その中に出てくる単語の意味を語源から説明してもらえます。文脈の中でしっくりくる意味を教えてもらえるので、英単語に日本語の意味をあてても英文の流れがとぎれることがありません。

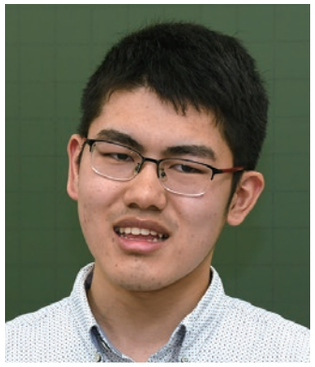
解説のときに、同じ語源の他の単語がどんどん展開していくこともあります。語源で単語の説明をしてもらえると推測力もつきます。このような授業のおかげで長文読解に強くなれたのだと思います。

**中川：**英語と楽しくつき合えるという印象の授業でした。僕は「この単語は受験に必須だ」とか「この英文は頻出構文だ」という受験の型にはめる英文読解が苦手でした。本を読むのが好きだったので、文章の意味をそのまま読んで楽しみたかったんです。

だから、興味深い英文が用意され、内容の解釈が主となるグノの授業は楽しめました。

それに、過去問ばかりを引っ張ってくるのではなく、生きている英文をたくさん読めるグノの授業では、英文の内容自体に興味を持てました。

**東海林：**中川君の言う通り、文章が本当に面白かったし、グノでは文章を楽しんで読むことが大切にされます。だから、問題を解いていても楽しいんです。



**北脇 優斗**さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

先生からも「ここではどんな意味？」といった質問が投げかけられ、文脈をしっかり踏まえることが求められました。丸暗記した意味が問われているのではないので、質問に答えられたときには、特別なうれしさがあります。

授業でのこういう経験は初めてでした。僕はそれまで、情報処理として英文を読んでいましたし、単語や文法は必死で覚えるものだと思っていました。

でも、グノに入ってからは、英文を味わう楽しみがわかるようになったし、初見の単語でも意味が推測できるようになりました。英文が記憶にも残りやすくなり、自然に頭の中に残っているフレーズを英作文で使えるようになっていたときは、自分の成長を実感しました。

## 英単語の覚え方

**今野：**単語帳を使わないアプローチは、グノの特筆すべきところだと思います。文章の中で出合った単語について、語源や関連語も一緒に教えてもらえます。

先生が基本動詞の意味を、体を使って表現してくださったときはびっくりしました。動詞なんだから具体的な動作ができるのはあたりまえなのに、今までそんな授業を受けたことがありませんでした。

前置詞のイメージを先生が黒板に描いたときにも驚きました。英単語の意味を日本語の意味に置き換えて覚えようとしていたそれまでの常識が覆り、単語の覚え方が自分の中で180度変わりました。

「単語帳の暗記は必要だ」と思っていましたし、学校でも単語帳で覚えるのがあたりまえの雰囲気です。友達も単語帳をやっていました。

でも、グノで英語を身につけた僕は、一度も単語帳を開けることはありませんでした。単語帳の暗記に時間を使うのはもったいないと思います。

**蒲田：**単語帳だと、日本語で書いてある意味しか覚えられません。でも、語源を踏まえて単語を解釈していくと、単語が持つふくよかなイメージがわかります。文章中で単語を覚えていくと的確な使い方が身につきます。和訳する必要があるときは、その場に最も適した訳し方が浮かぶようになるし、英作文をするときには適した単語が選べるようになります。

グノは、読解の授業でも作文の授業でも、単語と日本語の一対一対応ではなく、日本語では表せないイメージをつかみやすいような解説がなされていて、それは先生が僕たちに、受験だけで終わらない英語を伝えようとしてくれているからだと思います。

**北脇：**同感です。パッと単語を見たとき、「あの文章にあった単語だ」と、英文ごと、内容と一緒に単語が思い出せるようになって楽しかったです。

## グノーブルの音読

**恩田：**先生方の英語の知識はもちろん素晴らしいのですが、そこにとどまりません。いろいろな分野にも先生方は精通されていて、英文の背景知識まで詳しく説明してくださいます。だから、自分で読んでいるときには面白さが理解できなかった英文でも、授業の解説を受けると興味深いものに変わります。

興味の持てる英文は、そこに書かれている知識や考え方自体を学びたくなるので一生懸命に復習したくなります。授業で扱った英文を音読で復習するのが大好きでした。勉強の苦しさはまるでありませんでした。

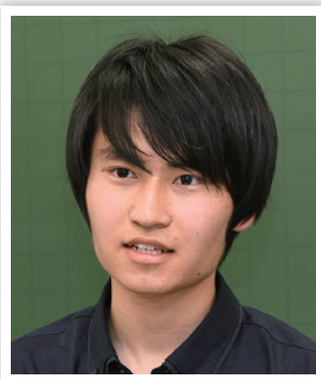
**北脇：**自宅学習は授業後の復習がメインで、その復習の中心は、誰かに語りかけるようにする音読というのが、グノの際だった特徴です。

授業で十分に理解して、その面白さがわかっている英文を、誰かに伝えるように音読するのは、単純に楽しいです。英語の実力も上がりました。

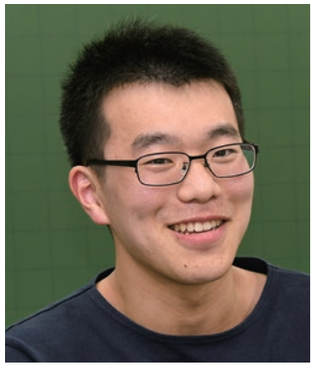
英文を前から語順のまま読む力が身について、単語を文章の内容と一緒に思い出せるようにもなりました。僕は他の教材を使わずにグノの教材一筋でした。

新しい英文を読むときも口パクしていました。口パクしているとスラスラ意味がとれます。入試本番でも口パクしたおかげでスラスラ理解できました。

**恩田：**先生の「演説するように音読するんだよ」という言葉に共感して、演説のつもりでの音読を心掛けていました。授業の解説でよく理解している英文を「演説」していると、筆者の言いたいことや、英文の組み立



**今野 諒也**さん（筑波大[公募制推薦]・海城）



**東海林 睦**さん（横浜市立大・淑徳）

てがよく見えてきます。

英語に関しては、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことの４つのうち、一番進度が遅いものに引きずられるので、４つのどれもおろそかにしてはいけません。だから、毎日音読を欠かしたことはありませんし、寝るときはGSL*を流して寝ることもありました。

直前期には問題を解くとき、問題文を音読していました。医科歯科大の入試問題は超長文なので、できるだけ集中力を切らさずに前からパパッと解釈できれば有利になります。本番ではそれがしっかりできて、音読の真価を身をもって感じました。

**東海林：**授業を受けた次の日に学校でも家でも音読をするようにしていました。好きな英文は10回か20回は読んでいましたね。気に入った英文だとつい読んでいて楽しくなってしまうことがあって、「このぐらいでやめないとまずい」と思うくらい読み込んでいました。

何度も読んでいると、解説を聞いてメモしたことがパッとわかる瞬間があります。「こういうことだったんだ」と解説されたことを実感できるのはとてもうれしくて、「別の発見があるかもしれない」と思うと、また読んでしまうんです。

**牧山：**私は、音読は高３になるまではあまりしていませんでした。そもそも復習もクラス分けテストの前にバーッとするくらいでした。高３になってからは、家で音読して、行き帰りの電車の中でも、マスクをしてバレないように口を動かして心の中で読んでいました。

**中川：**グノの音読は、いろいろなところで気軽にできるのが魅力です。移動時間中も口パクで読み込みができます。

音読がうまくなるとそれだけで英語の学習効果は大きいので、スキマ時間が英語の勉強時間に当てられます。授業の前後の５分間休みや時間の余ったときに取り組むだけでなく、他科目で疲れたときに、気分転換として英語を読みました。

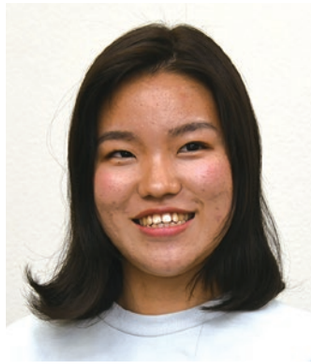
音読すると、演習のときに読めなかった部分などがパッとフラッシュバックして記憶に刻まれます。

自分で新しい英文を用意して読んだこともありました。このときは、構文などが自然とわかるくらいまで、授業以上に読み込みました。僕は音読だけを信じてやってきて結果も出たので、音読というスタイルは自分に合っていたのだと思います。

**蒲田：**僕も同じで、家に帰るのに１時間かかるので、電車の中でその日の復習と音読をやるようにしました。音読が習慣になるにつれて、英語は段々伸びました。

直前期までは数学や理科をやらなければならないことが多くて、夜遅

**中川 就迪**さん（慶應義塾大・開成）



**牧山 優香**さん（信州大・早稲田実業）

くまでこれらの科目を勉強していると、「これから英語をやるよりも早く寝たい」となりがちでした。でも、直前期にはそれを我慢して、音読だけはするようにしたら、最後は英語が一番伸びました。

音読は、１日２日空けてやるのと毎日やるのとでは全然違います。毎日しっかり音読してこそ効果があります。

**今野：**僕も高２までは音読していませんでした。音読は体を使うので疲れるし、部活もあって面倒くさかったからです。音読を始めたのは高３になってからで、読解の授業で毎回取り組む要約演習が全然できなかったことがきっかけです。

先生からは「英文は生き生きと読めなくてはいけない」と強調されていましたが、最初のうちは、「生き生きと読むというのは、どういう意味なんだろう？」と思っていました。

音読には半信半疑だったものの、要約演習で点がとれないので、とにかく先生に言われたままにやりました。電車の中ではGSLを聞き、学校の休み時間には音読し、家に帰ってからは椅子の上に立ってプレゼンする気持ちで音読しました。

そのうちわかったことは、「音読していると体が反応する」ということです。わかっていない単語があると自然と読めなくなって止まってしまいます。伝える気持ちを忘れて声を出すだけになっているときもすぐに気づきます。うまい読み方ができるときは頭も体も気持ち良くなります。

音読に真剣に向き合い始めてから、先生に以前から言われていた、「耳や口を鍛えないで英語の勉強をするのは、ボールを使わずに野球の練習をするようなものだ」という言葉の意味がわかるようになりました。「生き生き読む」ことも実感できるようになって音読の素晴らしさに気づきました。

## グノーブルの数学

**今野：**中１から高１までのグノの数学では、競うように楽しく問題を解けました。担当の先生が生徒一人ひとりを見回って、ちゃんと気を配ってくださいました。進度が速い人はプリントが追加で配られ、いくらでも楽しめて盛り上がっていました。問題に手間取っている人には先生が「大丈夫？」と声をかけてくださるし、必要ならば一から丁寧に説明してくださいます。

**恩田 健吾**さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

数学は好きでしたが必ずしも得意ではなかったので、先生の配慮と授業の雰囲気に助けられました。

**北脇：**僕も中１から数学を受けていて、授業で数学を楽しませてもらえました。先生は一人ひとりにプリントをくださったりといつも配慮してくださりました。

高２高３でも引き続き一人ひとりに目を配る点は変わりませんでした。

僕は数学が得意でしたが、独学では理解できないこともあって、それを教えていただくために授業に通っていました。すんなり理解が進む授業でした。

セルフチェックシートも書きました。基本的には、授業内演習について振り返って書きました。

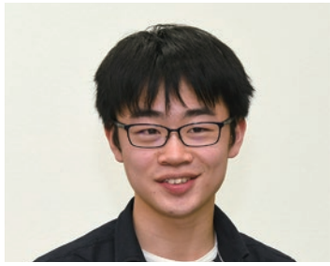
僕の場合、セルフチェックシートは書くこと自体に大いに意味がありました。書くことで自分の弱点を炙り出して自分の解法を見直すきっかけにしていました。答案の形で書くのとは違って、自分で言葉にして文章にするので、論理的にまとめることができたと思います。

書いているうちにいろいろな解法が身について、自分が成長するのを実感できたのが一番大きかったです。

**蒲田：**高１から高２までは受験勉強の意識もなく、グノには数学を楽しみに通っていました。当時は、「微積は難しい」というイメージがあって、特に積分に苦手意識がありました。でも、授業の解説がわかりやすく、最終的には微積が味方になってくれました。

高３の数ⅠAⅡBには、僕が苦手な発想を要求される問題がありました。そういう問題に対して、そのときのコンディションやひらめきなどに頼るのではなく、「こういう問題はこう解く」という方法論を示してくださったのがグノの授業でした。センスに頼ると限界になってしまう部分を戦略的に考えられるようになって、数学の力が伸びました。戦略的な方法論が身についたのは数Ⅲでも同様でした。

セルフチェックシートは毎週書きました。自分が正解した問題でも「ここでショートカットできたな」とか「ここは必要なかったな」とかを考えて、間違えた問題だけでなく、正解した問題でも時間短縮などの反省をするのに役立ちました。



**蒲田 文和**さん（東大理Ⅲ・開成）

## グノーブルの古文

**北脇：**グノの古文は１年間だけ受ければ受験対策が完成します。「高１からだと早いかな？」とも思いましたが、僕は高１の春期講習から古文を受講しました。

受けてみるととにかく授業が楽しくて、楽しいから学びたくなって、という感じでした。古文が得意というわけではありませんでしたが、楽しいからモチベーションが上がって、単語や文法の知識も面白いように頭に入りました。学ぶのも問題を解くのも苦でなく、復習していてもさらにモチベーションが上がりました。

高１で学んだことは、高３でセンター試験を解くときも記憶に残っていました。楽しんで覚えたことは、１年のブランクがあっても定着しているものです。古文の参考書などを読まなくても、授業に出ていれば助動詞の識別などが印象に残って、「どうして識別ができないのかわからない」というレベルにまで到達しました。

**恩田：**僕が古文を受講したのは高２の１年間でした。春期講習でひと通りの文法が頭に入った状態になり、あとは授業を楽しむために通っていたところがあります。

担当の先生は知識が豊富で話が上手でした。内容が的確でわかりやすい上に、ジョークやユーモアを交えた小話があって、その流れで知識も確認してくださったので、関連知識も含めて古文単語を覚えられました。

知識の確認では、答えられないと

＊GSL（Gnoble Sound Laboratory）：中１から高３までの６学年すべてに毎週用意されているオリジナルの英語音声教材。

恥ずかしいですが、答えられると話が弾んで深い話まで聞けます。だから、「しっかり答えて、先生から深い話を聞きたい」というのが毎回復習するときのモチベーションになりました。

## グノーブルの先生

**牧山：**グノの先生は全員、２回くらいで生徒の顔と名前を覚えてくださいます。名前を知ってもらえてあててもらえるので、やる気も出るし、「答えないといけない」という使命感も生まれます。

私の英単語力のほとんどは、中３からずっとお世話になった先生のおかげです。大切な単語に関しては何度も語源から教えていただき、あまり面白くないギャグと一緒に記憶に残っています（笑）。英文を前から読む読解力が身についたのもその先生のおかげです。

その先生とは長いおつき合いでしたから、私のことをよくわかってもらえているという安心感がありました。弱いところや課題を何度も指摘していただいたり、個人的にアドバイスをいただいたりしました。直前期には英作文の添削もたくさん対応していただきました。本当に感謝しています。

**北脇：**確かに、先生が僕たちの名前を覚えてくれて、初回の授業から名前であててもらえるのは良かったです。先生が生徒一人ひとりを見ようとしてくださる姿勢を感じられて、

**北脇 優斗**さん（東京医科歯科大・筑波大学附属駒場）

すごいと思うと同時に、感謝の気持ちも生じました。

英語も数学も古文も、先生が面白い話やジョークを言ってくださって、授業が楽しくなる工夫がちりばめられていました。苦痛の少ない大学受験ができたのは、グノの先生方のおかげです。

**恩田：**グノの授業が楽しかったのは、知ることの喜び、考えることの喜びを、先生方に伝えてもらえたからです。

大学受験に必要だから勉強するという面もありますが、英語から得られるいろいろな知識や情報は日本語で獲得できるものよりも断然多くて、しかも、思わぬ視点や考え方と出合えます。そういうことは、グノで扱った英文から十分に感じとれました。

将来英語を駆使していろいろな人と交流して、いろいろな知見を増やしたいと思っています。グノの先生から、英語を通して見える世界がどんなものかを教えてもらえましたが、僕は、そういう授業をしてくださった先生を本当に尊敬しています。

先生方の熱意もすごいんです。高３の頃は延長があたりまえの授業スタイルでしたが、面白い授業を受けていると、いつの間にか「えっ、もうこんな時間？」となっていることが多かったです。先生が本当に熱心なので、「僕もがんばるぞ」とも思っていました。

**中川：**どの先生の授業からも本当に熱意が伝わってきました。「その熱意に自分も応えないといけない」と思って、がんばり続けられました。

**東海林：**グノの授業は空気が引き締まっています。教室の雰囲気をつくるのはどんな先生がどれほど熱意を持っていらっしゃるかによるところが多いように感じます。

グノの英語の授業はずっと集中して、ものすごく頭の冴えた状態で受けられました。ですから、受動的に授業を受けていただけでは得られないものをものすごく学びました。そういう環境をつくってくださった先生に本当に感謝しています。

**今野 諒也**さん（筑波大[公募制推薦]・海城）

**蒲田：**一番感謝しているのは個別対応していただいたことです。グノは他塾に比べて少人数なので面倒見が良かったと思います。僕は毎回質問しにいって、飲み込めない部分が消化できるまで粘りました。それでも先生は嫌な顔をせず、一つひとつ丁寧に教えてくださいました。

しかも先生は、僕たち一人ひとりの状況をしっかり把握して、それに合わせた的確なアドバイスをくださいます。おかげで英語でも数学でも、穴のない受験準備ができたと思います。

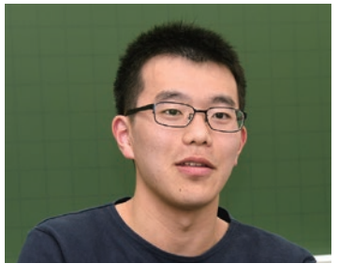
**今野：**僕も授業前や後でいつも質問していました。メールでもたくさん質問していましたが、先生からはすぐに丁寧な返信が届きました。それには本当に感謝しています。

それから高３のカリキュラムに入った高２の１月から、急に英語の成績が落ち始めてしまいました。最初のクラス分けテストでαからα１に落ち、２回目のテストでα３まで落ちてしまいました。それまでずっと英語が得意科目だと思っていたのに頼みの綱が切れてしまい、絶望的な気持ちにもなりました。

そんなときに支えてくださったのがグノの先生方でした。

ある先生は直接電話で「いつでも頼っていいよ」と声をかけてくださいました。もうひとりの先生はresilience＊という言葉を教えてくださいました。「ここで諦めたら何もかも終わってしまう」と思い直し、

＊ Gno-let vol.20「巻頭特集」



**東海林 睦**さん（横浜市立大・淑徳）

「粘り強く」努力を続けようと思えました。そして、８月末の最後のクラス分けテストではα１に戻ることができました。

これからの人生も粘り強く、resilienceをもって進んでいこうと思っています。

## 後輩へのアドバイス

**恩田：**グノは音読の大切さを教えてくれますし、実際にその通りに音読すると大きな武器になります。グノで学ぶ英語は将来にも活かせると思います。大学受験だけでなく、背景知識などにもアンテナを張りながら、いろいろなものに興味を持って学んでください。

**蒲田：**グノは数学も英語もきちんと教えてくれる塾です。少人数で生徒一人ひとりと向き合ってくれるので、その環境を利用しましょう。授業内容の80%、90%が自分のものになるように、納得するまで質問することを積み重ねれば、確実に実力がつきます。

**北脇：**グノに通ってきちんと授業を聞くことに加えて、自主的な姿勢を

**中川 就迪**さん（慶應義塾大・開成）

忘れないことが大切だと思います。英語の学習に関しては、グノのやり方での音読をすれば、絶対に力が伸びます。医学部だからといって医学部受験の勉強に特化しなくても、グノを信じてがんばれば楽しく実力を伸ばせて、どこの問題にでも太刀打ちできるようになります。

**今野：**高３になると、既卒生も模試に参入してきて一気に成績が落ちる可能性があります。僕自身はグノのクラス分けテストでも落ちてメンタルがどん底になりました。そんなときはひとりでがんばろうとしすぎない方がいいと思います。グノの先生はしっかり支えてくださいます。心が救われるような、本当に素晴らしい対応をしてくださって、僕は感謝の気持ちでいっぱいです。

先生方は、僕たち生徒が思っているよりも、生徒一人ひとりのことを考え、しっかり見ていてくださいます。グノに通っている後輩たちにも、先生方に普段から質問や相談をして、積極的に頼って、最後には自分のやってきたことを信じて試験に臨んでもらいたいと思います。

**東海林：**グノはとても楽しい塾です。授業が楽しくて、音読しているうちに英語の力がついてきて、さらに授業でいろいろなことを吸収できるようになって、というサイクルを繰り返しているうちに、英語が自分の中にしっかり根づいていきます。

英語が自分の中に根づいて、英文を英語のまま読めるようになってくると、知らない単語も文脈の中で推測できるようになってスラスラ内容が入ってきます。そのうちに今度は文章の内容に対して深く考えられるようにもなれます。

グノでは英文の内容も、自分の成長も、楽しみながら勉強できますし、その経験があれば受験勉強も乗り切れます。がんばってください。

**牧山：**特に女子は数学が最初から最後まで苦手なことが多いです。でも、医学部は数学と理科と英語の配点が１対１対１であることが多いので、数学が苦手だからといって諦めないでください。実際、私は数学で失点してしまいましたが、英語がずっと安定していたので穴埋めできました。特に英語は、できるようになると落ちにくい科目なので、英語を安定させれば受かると思います。

グノでしっかり復習していけば、英語は力がついて安定し、自分の強みになってくれます。グノの環境をしっかり利用して、復習もしっかりして、英語を伸ばしていってください。

**中川：**英語を受験勉強と捉えるとつまらないし続きません。一方、グノは、受験のための勉強というより、英語が楽しくなるような勉強をさせてくれる塾です。だから、授業時間が長くても、面白いから長く感じないし、楽しく通い続けられるはずです。

僕の場合、高３の冬の模試で慶應がＥ判定で、「ヤバイ」と思いましたが、最終的には合格しました。医学部に限らず、最後まで努力すれば、大学は入学を認めてくれます。逆に、合格できる実力があっても、最後まで努力しないと結果はついてきません。周りを見ても、真面目に勉強を続けていた人は受かっているし、途中で油断した人は結果が出ていませんでした。

最後まで努力できるかできないかで結果が変わってくると思います。そしてそれをし続けるコツは、勉強の中にいつも楽しみを見いだすことだと思います。

**牧山 優香**さん（信州大・早稲田実業）

慶應義塾 大学 法学部 進学
東京女学館高等学校
Gnoble 大好き♡ 本当に ありがとうございました

早稲田 大学 文化構想学部 進学
東京学芸大学附属高校
努力が"したくなる"塾!!

東京 大学 理一 進学
開成高校
学ぶとはどういうことか 教えてくれる塾!!

早稲田 大学 法学部 進学
東京学芸大学附属高校
グノーブルは楽しいです! 音読最高!! ありがとうございました!!!

慶應義塾 大学 経済学部 進学
芝高校
英語が好きになれる塾! 添削とても丁寧で最高! アットホームないい所!

慶應義塾 大学 理工学部 進学
芝高校
Gnoble 最高!!

東京 大学 理科一類 進学
駒場東邦高校
英語はGnoble 物理はGnoble 勉強を楽しめるのは Gnoble!!

東京 大学 文科II類 進学
筑波大学附属駒場高校
Gnoを信頼して よかったです!

早稲田 大学 社会科学部 進学
頌栄女子学院
桜が咲いたのはGnoのおかげです
ありがとうございます

東京 大学 理二 進学
小石川中等教育学校
安定した学力の基盤をつくってくれた塾!! 入ってマジでよかった

北海道 大学 医学科 進学
開成高校
とにかく毎回の授業が楽しみでしょうがなく、気づいたら力がついてました! ありがとうございました!

東京工業 大学 工学院 進学
芝高校
数物グノに頼ったら 100%受かります!!

早稲田 大学 創造理工学部 進学
女子学院
英語へのイメージが180°かわりました! 本当にGnobleに入ってよかったです!! グノでよかった!!!

一橋 大学 商学部 進学
浦和明の星女子高校
Gnoを信じて よかった!!
先生方本当にお世話になりました!

筑波 大学 医・医 進学
世田谷学園
英語はもちろん 数学も"神"

東京 大学 文科二類 進学
女子学院高校
グノーブル楽しかったです☆ 英語が一番の得意科目になりました!!

東京 大学 文科一類 進学
芝高校
知的好奇心も掴まない塾!!

東京 大学 理一 進学
開成高校
Gnoble最高! 英語も数学も神になれます

東京 大学 理科三類 進学
開成高校
Gnoble最高! 本当にお世話になりました! 英語も数学も最高の塾!

東京 大学 文科I類 進学
駒場東邦
Gnobleを 信じれば 間違いない

東京 大学 文科二類 進学
早稲田高校
グノのおかげで英語が 武器になりました。
ありがとうございました!!

東京 大学 文科I類 進学
海城高校
英語だけじゃなく 数学もグノ!

早稲田 大学 政治経済学部 進学
雙葉高校
Gnobleは最高の!塾です! もっと早く入っとけば良かった!! 楽しく勉強ができたのが幸せでした♡

東京 大学 理科I類 進学
開成高校
グノで英語爆伸びしました。 本当に感謝しています

横浜市立 大学 医学部医学科 進学
淑徳高校
英語は音読、そう教わって 英語に対する気持ちが変わりました。音読最強。

一橋 大学 商学部 進学
お茶の水女子大学附属高校
Gnobleに 通ってよかった!!

京都 大学 教育学部 進学
早稲田高校
グノの授業、最高です!! 音読で力がつきました! ありがとうございました!

東京 大学 文科三類 進学
開成高校
グノの英語は 最強です!
音読を継続しよう!

早稲田 大学 商学部 進学
雙葉
知識豊富な先生方から教えて頂いたことは、一生の宝物です☆ 勉強の面白さも教えて下さってありがとうございました!!!

早稲田 大学 法学部 進学
雙葉
Gnoble最高でした!! おもしろい先生がいっぱいいらっしゃって楽しかったです♡ ありがとうございました!!

早稲田 大学 創造理工学部 進学
豊島岡女子学園
友達100人におすすめしたい塾 No.1

東京農工 大学 農学部地域生態システム学科 進学
横浜雙葉高校
今までありがとうございました! Gnoble最高!

東京 大学 文科II類 進学
筑波大学附属駒場高校
グノの国語で 確かな基礎力を つけて合格することができました! ありがとうございました!

東京 大学 理科II類 進学
開成
グノの英語はいいぞ! 音読最高!

東京 大学 理科二類 進学
桜蔭高校
これまでありがとうございました! グノで英語だけでなく、更に深いところまで学べました。

東京 大学 文科三類 進学
都立国立
グノーブルのおかげとしか言えません! 本当に、本当にありがとうございました! Gnoble最高です☆

東京医科歯科 大学 歯学部 進学
女子学院 JG
グノ超楽しかったです! 中3の頃は英語ダメダメだったけど、得意科目になりました

東京医科歯科 大学 進学
富士見高等学校
グノのおかげで合格できました! ありがとうございました

東京医科歯科 大学 医学部医学科 進学
筑波大学附属駒場高等学校
6年間グノ一筋でした。 ありがとうございました!

東京 大学 文科I類 進学
田園調布雙葉
本当にありがとうございました♡ グノの国語と英語で勝てました。

東京工業 大学 工学院 進学
麻布
英語の根本から教えてくれて、毎週の英語が楽しみでした。

慶應 大学 理工学部 進学
筑波大学附属高
音読をつづけると、 本当に読めるようになります!

慶應義塾 大学 商学部 進学
横浜共立学園
グノーブルに通い始めて英語力が伸びたと実感しています! ありがとうございました!^^

慶應 大学 経済学部 進学
筑附
グノの音読 めっちゃ良い!

慶應 大学 経済学部 進学
桐朋
Gnobleにかよって 英語が得意になりました。 ありがとうございました。

早稲田 大学 政治経済学部 進学
世田谷学園
授業が楽しい! 国語はグノ!

東京 大学 文科一類 進学
洗足学園
グノーブルについていけば 大丈夫! 大好きになれる塾!!

東京 大学 理科I類 進学
開成高校
勉強を楽しんで! 延長も楽しんで! 先生の熱に(とりあえず)乗って! Gnobleの流れに身を任せて。

東京 大学 理科II類 進学
本郷高校(私)
音読が英語の基礎になりました! 楽しかったです!

慶應義塾 大学 経済学部 進学
浅野高校
文武両道を 支えてくれた 塾でした。

東北 大学 医学部 進学
白百合学園高校
英・数・国・理 全てが最高!

東京 大学 理科II類 進学
雙葉高校
苦手だった国語を楽しく学習することができました。1年間大変お世話になりました。

一橋 大学 法学部 進学
白百合学園
グノを信じてついていけば 必ず報われます!!
Gnoble最高

東京 大学 文科I類 進学
麻布
英語&国語×Gnoble = 大学合格 Gnobleを信じて!!

東京 大学 理科2類 進学
雙葉
グノを信じて 音読をやれば 大丈夫です!! 頑張って下さい

東京 大学 理科一類 進学
早稲田高校
勉強の仕方を 教えてくれる塾!!

早稲田 大学 基幹理工 進学
早稲田高校
Gnoble最高! ありがとうございました!

一橋 大学 商学部 進学
豊島岡女子学園
Gnobleのおかげで英語に 絶対的な自信を持つことができました!!

東京 大学 理科1類 進学
開成高校
グノーブルを信じろ 自分を信じろ。

東京 大学 文科3類 進学
筑波大学附属駒場
グノで鍛えた国語力は 自分の世界を広げてくれます!

日本医科 大学 医学部 進学
東洋英和女学院
Gnobleのおかげで 人生ハッピーです! 本当にありがとうございました♡

東京女子医科 大学 医学部 進学
東洋英和女学院高等部
とにかく周りのレベルの高さに圧倒され続けた2年(くらい)でした! ありがとうございました!

早稲田 大学 創造理工学部 進学
東洋英和女学院高
とにかく楽しい3年間でした!! Gnobleが大好きです。 ありがとう♡

慶應義塾 大学 法学部 進学
白百合学園
I ♥ Gnoble!!
知の力を活かせる人になります!!

東京医科 大学 医学部 進学
桜蔭
教材も先生も最高です。

東京 大学 理科一類 進学
桜蔭高校
GNOBLEで勉強できて幸せでした☆☆ 英語がもっと好きになれました。 ありがとうございました

慶應義塾 大学 法学部(法) 進学
頌栄女子学院
Gnobleは"楽しい"塾です! 勉強を楽しめれば受験も乗り切れます♡

東京 大学 文科一類 進学
九段中等
グノで数学得意になった。

東京 大学 理科二類 進学
桜蔭高校
英語だけじゃなくて、数学も物理も化学も国語もグノは最高です! 3年間ありがとうございました!!!

一橋 大学 社会学部 進学
桜蔭高校
グノーブル最高! ありがとうございました。

慶應義塾 大学 法学部 進学
学習院女子高等科
第1志望に合格しました! 英語も、国語も、小論文も、グノーブルのおかげで合格できました 本当にありがとうございました! お世話になりました。

◎表紙の写真とこのページのメッセージは、受験報告会(2019年3月)の記録から編集者が任意に選んだものです。

# グノーブルの授業は、皆さんと私たちの合作。

## 一方通行の解説ではないので眠くなることはありません。

- 「家で宿題、塾で答え合わせ」という古いスタイルを打ち破っています。
- 授業中に集中して演習できます。私たちはその答案をその場で添削します。
- 演習直後の解説は、私たちと皆さんがやり取りしながら進めます。
- 皆さんが楽しく効果的に取り組める教材を、毎週新しく配付します。

**熱中できる仕組み、質問も相談もすぐにできる環境を実感してください。**

### 大学受験 Gnoble 大学受験 グノーブル

**難関大学・医学部を目指す中1生～大学受験生**

本物の知的体力がますます求められています。その知の力を伸ばすのに最も大切な要件は、前向きになれる、知的刺激にあふれた環境で学ぶことです。授業形式、教材、そして、教職員の接し方に至るまで、皆さんが意欲的になれる環境を整備し、難関大学・学部を目指す皆さんをしっかりサポートしていきます。

### 中学受験 Gnoble 中学受験 グノーブル

**難関中学を目指す小学生**

最新の入試傾向に対応したカリキュラム、精選されたオリジナルテキストを基に、経験豊かな講師陣が一人ひとりに向き合った双方向の授業を展開し、難関中を目指す子どもたちを導いていきます。学習したい教科や志望校別のクラスが選択できるなど、中学受験に関するさまざまなご要望にお応えしていきます。

### 個別指導 GnoLink 個別指導 グノリンク

**難関校を目指す小学生～大学受験生**

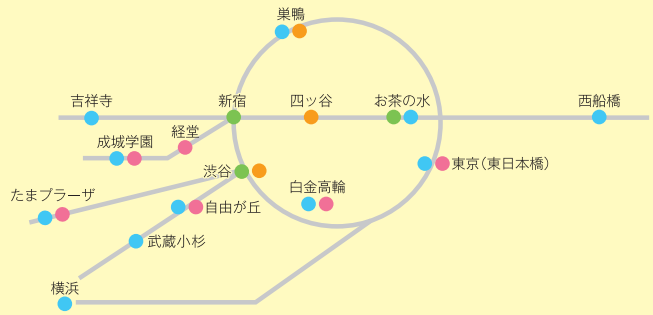
生徒一人ひとりに心を配り、その子の持つ可能性を追求します。学習状況に合わせて、講師1名に生徒2名、あるいは生徒1名の完全個人指導体制を提供します。中学受験・大学受験グノーブルと並行して通うことも可能です。グノーブルオリジナルテキスト等も併用しながら、個別に対応します。

### 英会話 GnoKids 英会話 グノキッズ

**0歳児～小学生**

さまざまな楽しい英語体験を通して、聞く、話す、読む、書くの4つの力を伸ばします。先生2名に生徒は8名程のクラスで、ネイティブの英語に触れ、親しむことができます。ご家庭での学習も配慮した教材で、継続的な学習を無理なく行うことができます。

### Gnoble グループ　各校舎所在地




Gnoble GROUP

大学受験 グノーブル　中学受験 グノーブル
個別指導 グノリンク　英会話 グノキッズ

グノーブル総合案内
www.gnoble.com

Gno-let vol.23
発行：富士教育出版　〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-10-2
監修：グノレット編集部（gno-let@gnoble.jp）
GL 23-1906-1